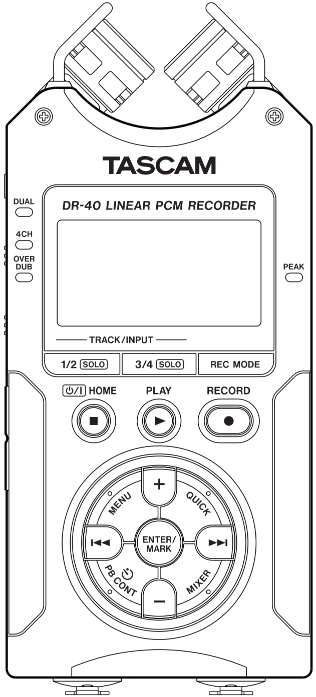
D01157901A

TASCAM

DR-40

Linear PCM Recorder



取扱説明書

安全にお使いいただくために

製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、以下の注意事項をよくお読みください。

警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く	**万一、異常が起きたら** **煙が出たり、変なにおいや音がするときは** **機器の内部に異物や水などが入ったときは** **この機器を落としたり、カバーを破損したときは** すぐに機器本体の電源スイッチを切り、ACアダプター使用時にはACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。 販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）に修理をご依頼ください。
禁止	**ACアダプターのコードを傷つけない** **ACアダプターのコードの上に重いものをのせたり、コードを壁や棚との間に挟み込んだり、本機の下敷きにしない** **ACアダプターのコードを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、熱器具に近づけて加熱したりしない** コードが傷んだまま使用すると火災・感電の原因となります。 万一、ACアダプターのコードが破損したら（芯線の露出、断線など）、販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載）をご依頼ください。
	別売の専用ACアダプターや電源コードを他の機器に使用しない 故障、火災、感電の原因となります。

警告 以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、火災や感電などによって、死亡や大怪我などの人身事故の原因となります。

禁止	**交流100ボルト以外の電圧で使用しない** この機器を使用できるのは日本国内のみです。表示された電源電圧(交流100ボルト)以外の電圧で使用しないでください。また、船舶などの直流(DC)電源には接続しないでください。火災・感電の原因となります。
	この機器の隙間などから内部に金属類や燃えやすい物などを差し込んだり、落としたりしない 火災・感電の原因となります。
	航空機の離着陸時には使用しない 航空機の運行の安全に支障を及ぼすおそれがあるため、離着陸時の使用は航空法令により制限されていますので、離着陸時は本機の電源をお切りください。
指示	**ACアダプターの電源プラグにほこりをためない** ACアダプターの電源プラグとコンセントの間にゴミやほこりが付着すると、火災・感電の原因となります。定期的(年1回くらい)にACアダプターの電源プラグを抜いて、乾いた布でゴミやほこりを取り除いてください。
分解禁止	**この機器のカバーは絶対に外さない** カバーを開けたり改造すると、火災・感電の原因となります。 内部の点検・修理は販売店またはティアック修理センター（裏表紙に記載)にご依頼ください。
	この機器を改造しない 火災・感電の原因となります。

注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
ACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く	**移動させる場合は、電源をスタンバイにし、必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードを外す** コードが傷つき、火災・感電の原因や、引っ掛けてケガの原因になることがあります。
	旅行などで長期間この機器を使用しないときやお手入れの際は、安全のため必ずACアダプターの電源プラグをコンセントから抜く 通電状態の放置やお手入れは、漏電や感電の原因となることがあります。
指示	**オーディオ機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する** **また、接続は指定のコードを使用する**
	電源を入れる前には、音量を最小にする 突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。
	ACアダプター使用時にはコンセントの近くに設置し、ACアダプターの電源プラグは簡単に手が届くようにする 異常が起きた場合は、すぐにACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いて、完全に電源が切れるようにしてください。
	この機器には、別売の専用ACアダプターや電源コードを使用する それ以外の物を使用すると、故障、火災、感電の原因となります。

注意	以下の内容を無視して誤った取り扱いをすると、感電やその他の事故によって、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。
禁止	**ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かない** **湿気やほこりの多い場所に置かない。風呂、シャワー室では使用しない** **調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気があたる場所に置かない** 火災・感電やケガの原因となることがあります。
	ACアダプターの電源プラグを抜くときは、ACアダプターの電源コードを引っ張らない コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。 必ずプラグを持って抜いてください。
禁止	**濡れた手でACアダプターの電源プラグを抜き差ししない** 感電の原因となることがあります。
注意	5年に一度は、機器内部の掃除を販売店またはティアック修理センターにご相談ください。 内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については、ご相談ください。

電池の取り扱いについて

本機は、電池を使用しています。誤って使用すると、発熱、発火、液漏れ等を避けるため、以下の注意事項を必ず守ってください。

警告 乾電池に関する警告

禁止	**乾電池は絶対に充電しない** 破裂、液もれにより、火災・けがの原因となります。

警告 電池に関する警告

強制	**電池を入れるときは、本機の電源を切った状態で行い、極性表示(プラスとマイナスの向き)に注意し、電池ケースに表示されているとおりに正しくいれる** 間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
	長時間使用しないときは電池を取り出しておく 液がもれて火災・けが、周囲を汚損する原因となることがあります。もし液がもれた場合は、電池ケースについた液をよく拭き取ってから新しい電池を入れてください。また、万一もれた液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

警告 電池に関する警告

禁止	**指定以外の電池は使用しない** **新しい電池と古い電池、または種類の違う電池を混ぜて使用しない** 破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損することがあります。
	金属製の小物類に携帯、保管しない ショートして液もれや破裂などの原因となることがあります。
	加熱したり、火や水の中に入れない 電池の破裂、液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
分解禁止	**分解しない** 電池内の酸性物質により、皮膚や衣服を損傷する恐れがあります。
注意	保管や廃棄をする場合は他の電池や金属のものと接触しないようにテープなどで端子を絶縁してください。
	使い終わった電池は、電池に記載された廃棄方法、もしくは各市町村の廃棄方法に従って捨ててください。

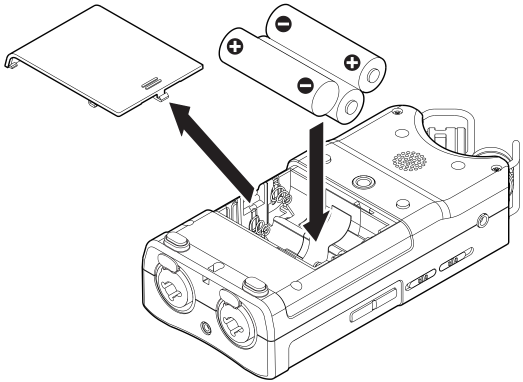
目次

目次

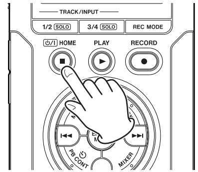
クイックスタートガイド

本機を使って、録音と再生をしてみましょう。
工場出荷時には、あらかじめSDカードが本体に挿入されており、録音形式はWAV形式44.1kHz、16ビットに設定されています。
録音形式を変更すると、より高音質で録音したり、より長時間の録音をすることができます。詳しくは、43ページ「ファイル形式／サンプリング周波数／最大ファイルサイズを設定する（REC SETTING)」をご参照ください。

1. 本機の裏面にある電池ケースに電池を入れます。電池ケース内の⊕と⊖表示に合わせて電池をセットしてください。

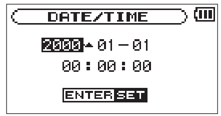


2. 電源をオンにします。各種情報を表示します。
   ⏻/❙ (HOME)[■] ボタンを、本機が起動されるまで押し続けます。本機が起動したらボタンを離します。



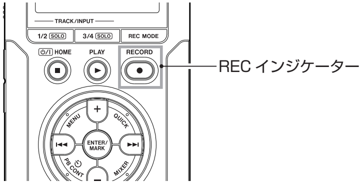
注意

お買い上げ後、最初に電源を入れたときには、内蔵時計を設定するための画面が表示されます。



⏮ボタンまたは⏭ボタンを押して、カーソル（反転表示部）を移動し、+ボタンまたは−ボタンを使って日付と時刻を合わせます。設定が完了したら、ENTER/MARKボタンを押して確定します。

3. RECORD [●] ボタンを押すと、録音待機状態になります。このとき、RECインジケーターが点滅します。



メモ

このとき、ホーム画面右上に "L-R" または "R-L" のアイコンが付いている場合は、マイクの角度と内蔵マイクの左右設定が合っていません。(→ 40ページ「内蔵ステレオマイクについて」)

4. 左サイドパネルのINPUT LEVEL（+ ／ー）ボタンを使って入力レベルを設定します。詳しくは、47ページ「入力レベルを調節する」を参照してください。

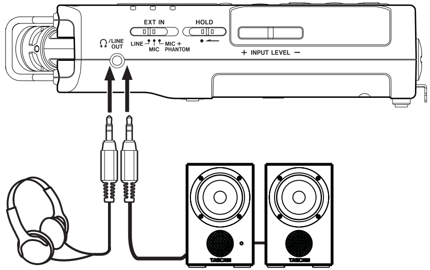
5. RECORD [●] ボタンを押すと、録音が始まります。録音中は、RECインジケーターが点灯します。

6. 録音を終了するには、⏻/❙(HOME)[■] ボタンを押します。

メモ

録音中に再度RECORD [●] ボタンを押すことで録音を一時停止し、RECORD [●] ボタンを押すと同じファイルに録音を再開することができます。

7. PLAY [►] ボタンを押すと、今録音したものが再生されます。ヘッドホンで聴く場合や、外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー）で聴く場合は、左サイドパネルにある Ω /LINE OUT端子に機器を接続します。
本体内蔵のスピーカーで聴く場合は、スピーカー設定をオンにします。(→ 39ページ「内蔵スピーカーで再生する」)



8. 再生音量の調節は、＋ボタンまたはーボタンを使って行います。

9. 再生を停止するには、⏻/❙(HOME)[■] ボタンを押します。

メモ

録音を複数回行った場合は、ホーム画面で停止中または再生中に、⏮ボタンまたは⏭ボタンを使って再生するファイルを選択します。

第1章　はじめに

このたびは、TASCAM Linear PCM Recoder DR-40をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
ご使用になる前に、この取扱説明書をよくお読みになり、正しい取り扱い方法をご理解いただいたうえで、末永くご愛用くださいますようお願い申しあげます。お読みになったあとは、いつでも見られるところに保管してください。
また取扱説明書は、TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）からダウンロードすることができます。

本機の概要

- 記録メディアにSD ／ SDHCカードを採用したコンパクトサイズのオーディオレコーダー
- 可動式（A-B ／ X-Yポジション録音対応）で高性能な指向性ステレオマイクを搭載
- マイクの開閉により音質の異なるステレオ録音が可能
  Close：位相差を抑えたクリアなステレオ録音
  Open ：広がりのあるステレオ録音
- MSマイクに対応したデコード機能を搭載
- 同時に最大4チャンネルの録音が可能
- 44.1k/48k/96kHz、16/24ビットのリニアPCM（WAV形式）録音が可能
- BWFフォーマットに対応
- 32k ～ 320kbpsのMP3形式での録音が可能（ID3 tag v2.4対応）
- 異なるレベルで２系統の録音を同時に行うことができるデュアル録音
- 再生音に入力信号をミックスして別ファイルとして録音することが可能なオーバーダビング機能（ミックスモード）
- 再生音に入力信号を重ねて録音する時に、もとのファイルを残しながら新たに別ファイルにも録音するオーバーダビング機能（セパレートモード）
- 0.3Wモノラル出力のモニタースピーカーを内蔵
- 録音時または再生時に使用可能な内蔵エフェクター（リバーブ）を搭載
- 音声の入力レベルを感知して、自動で録音の開始が行えるオートレック機能
- 録音を継続したまま、あらかじめ設定した最大ファイルサイズによって、自動的に新たなファイルに記録を開始することが可能
- 状態に応じて、必要な機能にすばやくアクセスするためのQUICK（クイック）ボタン搭載
- 録音を継続したまま、任意の位置でファイルを更新できるトラックインクリメント機能
- 録音開始2秒前からの音を録音できるプリレック機能
- 入力レベルが大きすぎる場合に、適度なレベルに自動的に入力レベル設定を下げるピークリダクション機能
- 大きい音は小さく、小さい音は大きくして常に最適なレベルで録音できるオートレベル機能
- 入力レベルが大きすぎる場合に、その部分だけ適度なレベルに自動的に調節するリミッター機能
- 低域ノイズの低減に便利なローカットフィルター
- 音程を変えずに再生スピードを0.5倍から1.5倍まで（0.1倍単位）可変できるVSA機能
- リピート再生機能およびIN-OUTループ再生機能
- 再生スピードコントロール、IN-OUTループの設定を行う画面を表示するPB CONTボタン搭載

- 楽器の音程を合わせるためのチューナー機能
- 指定時間後に録音を開始するセルフタイマー機能
- 再生中にボタンのワンプッシュで数秒前に戻って再生しなおすジャンプバック再生機能
- 2系統の入力の距離差を解消するディレイ機能
- プレイリスト機能
- 任意の位置でファイルを分割するディバイド機能（WAVファイルのみ）
- 特定の位置への移動に役立つマーク機能
- 再生イコライザー機能および、再生全体の音圧感を上げるレベルアライン機能
- ファイル名の形式をユーザーワードまたは日付のどちらかに設定可能
- 電源をオフにする前の再生位置を記憶しておくリジューム機能
- 3.5mm（1/8"）ライン出力／ヘッドホン出力端子
- 128 x 64のバックライト付ドットマトリックスタイプLCD
- Mini-B タイプUSB 2.0端子
- 単3形電池3本、ACアダプター（別売：TASCAM PS-P515U）またはUSBバスパワー供給
- 本体に三脚取り付け用穴を装備
- USBケーブル付属
- マイク入力は、+24V ／ +48Vファントム電源供給可能
- 2つのバランスマイク／ライン入力（XLR/TRSコンボジャック）

本製品の構成

本製品の構成は、以下の通りです。
なお開梱は、本体に損傷を与えないよう慎重に行ってください。梱包箱と梱包材は、後日輸送するときのために保管しておいてください。
付属品が不足している場合や輸送中の損傷が見られる場合は、当社までご連絡ください。

- 本体　x1
- SDメモリーカード（本体差し込み済）　x1
- 単3形アルカリ乾電池　x3
- USBケーブル（80cm）　x1
- チルトフット　x1
- 取扱説明書（本書）　x1

第1章　はじめに

本書の表記

本書では、以下のような表記を使います。

- 本機および外部機器のボタン／端子などを「**MENU**ボタン」のように太字で表記します。
- ディスプレーに表示される文字を **“ON”** のように “＿” で使って表記します。
- 「SDメモリーカード」のことを「SDカード」と表記します。
- パソコンのディスプレー上に表示される文字を《**DR-40**》のように《＿》で使って表記します。
- 必要に応じて追加情報などを、「ヒント」、「メモ」、「注意」として記載します。

ヒント

本機をこのように使うことができる、といったヒントを記載します。

メモ

補足説明、特殊なケースの説明などをします。

注意

指示を守らないと、人がけがをしたり、機器が壊れたり、データが失われたりする可能性がある場合に記載します。

商標および著作権に関して

- TASCAMおよびタスカムは、ティアック株式会社の登録商標です。
- SDHCロゴは、SD-3C, LLCの商標です。

- Supply of this product does not convey a license nor imply any right to distribute MPEG Layer-3 compliant content created with this product in revenue-generating broadcast systems (terrestrial, satellite, cable and/or other distribution channels), streaming applications (via Internet, intranets and/or other networks), other content distribution systems (pay-audio or audio-on-demand applications and the like) or on physical media (compact discs, digital versatile discs, semiconductor chips, hard drives, memory cards and the like). An independent license for such use is required. For details, please visit http://mp3licensing. com.
- MPEG Layer-3 audio coding technology licensed from Fraunhofer IIS and Thomson.
- Microsoft, Windows, Windows XP, Windows Vista, および Windows 7 は、米国 Microsoft Corporation の、米国、日本およびその他の国における登録商標または商標です。
- Apple、Macintosh、iMac、Mac OS および MacOS X は、Apple Inc. の商標です。
- EVOLTAは、パナソニック株式会社の登録商標です。

- eneloopは、三洋電機株式会社の登録商標です。
- その他、記載されている会社名、製品名、ロゴマークは各社の商標または登録商標です。

ここに記載されております製品に関する情報、諸データは、あくまで一例を示すものであり、これらに関します第三者の知的財産権、およびその他の権利に対して、権利侵害がないことの保証を示すものではございません。従いまして、上記第三者の知的財産権の侵害の責任、またはこれらの製品の使用により発生する責任につきましては、弊社はその責を負いかねますのでご了承ください。

第三者の著作物は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。装置の適正使用をお願いします。弊社では、お客様による権利侵害行為につき一切の責任を負担致しません。

SD カードについて

本機では、SDカードを使って録音や再生を行います。
使用できるカードは、64MB ～ 2GBのSDカード、および4GB ～ 32GBのSDHCカードです。
TASCAMのウェブサイト（**http://tascam.jp/**）には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されていますので、ご参照ください。もしくは、タスカム カスタマーサポートまでお問い合わせください。

取り扱い上の注意

SDカードは、精密にできています。カードやスロットの破損を防ぐため、取り扱いにあたって以下の点をご注意ください。

- 極端に温度の高い、あるいは低い場所に放置しないこと。
- 極端に湿度の高い場所に放置しないこと。
- 濡らさないこと。
- 上に物を乗せたり、ねじ曲げたりしないこと。
- 衝撃を与えないこと。

設置上の注意

- 本機の動作保証温度は、摂氏0度～40度です。
- 次のような場所に設置しないでください。音質低下の原因、または故障の原因となります。

  振動の多い場所
  窓際などの直射日光が当たる場所
  暖房器具のそばなど極端に温度が高い場所
  極端に温度が低い場所
  湿気の多い場所や風通しが悪い場所
  ほこりの多い場所
  直接雨などの水が当たる場所
- 本機の近くにパワーアンプなどの大型トランスを持つ機器がある場合にハム（うなり）を誘導することがあります。この場合は、この機器との間隔や方向を変えてください。
- テレビやラジオの近くで本機を動作させると、テレビ画面に色むらが出たり、ラジオから雑音が出ることがあります。この場合は、本機を遠ざけて使用してください。
- 携帯電話などの無線機器を本機の近くで使用すると、着信時や発信時、通話時に本機から雑音が出ることがあります。この場合は、それらの機器を本機から遠ざけるか、もしくは電源を切ってください。
- 放熱を良くするために、本機の上には物を置かないでください。
- パワーアンプなど熱を発生する機器の上に本機を置かないでください。

結露について

本機を寒い場所から暖かい場所へ移動したときや、寒い部屋を暖めた直後など、気温が急激に変化すると結露を生じることがあります。結露したときは、約1～2時間放置した後、電源を入れてお使いください。

製品のお手入れ

製品の汚れは、柔らかい布で乾拭きしてください。化学ぞうきん、ベンジン、シンナー、アルコールなどで拭かないでください。表面を傷めたり色落ちさせる原因となります。

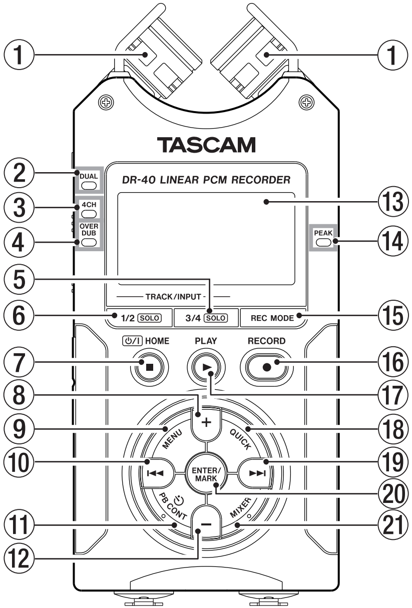
ユーザー登録について

ユーザー登録については、巻末をご参照ください。

アフターサービス

- この製品には、保証書を添付しております。保証書は、所定事項を記入してお渡ししてますので、大切に保管してください。
- 保証期間はお買い上げ日より1年です。保証期間中は記載内容によりティアック修理センターが修理いたします。その他の詳細については保証書をご参照ください。
- 保証期間経過後、または保証書を提示されない場合の修理などについては、お買い上げの販売店またはティアック修理センターにご相談ください。修理によって機能を維持できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。
- 万一、故障が発生した場合は使用を中止し、必ず電源プラグをコンセントから抜き、または電池を本体より取り出して、お買い上げ店またはティアック修理センターまでご連絡ください。修理を依頼される場合は、次の内容をお知らせください。
  なお、本機の故障、もしくは不具合により発生した付随的損害（録音内容などの補償）の責については、ご容赦ください。
  本機を使ったシステム内のハードディスク、MOディスクなどの記録内容を消失した場合の修復に関しては、補償を含めて当社は責任を負いかねます。
    - 型名、型番（DR-40）
    - 製造番号（Serial No.）
    - 故障の症状（できるだけ詳しく）
    - お買い上げ年月日
    - お買い上げ販売店名
- お問い合わせ先については、巻末をご参照ください。
- 当社は、この製品の補修用性能部分（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。
- 本機を廃棄する場合に必要となる収集費などの費用は、お客様のご負担になります。

トップパネル



① 内蔵ステレオマイク

エレクトレットコンデンサータイプの指向性ステレオマイクです。マイクは、両方のマイクを開いた状態（A-B）、閉じた状態（X-Y）の2つの状態にすることができます。

② DUALインジケーター

デュアル録音モードで録音中に、橙色に点灯します。

③ 4CHインジケーター

4チャンネル録音モードで録音中に、橙色に点灯します。

④ OVER DUBインジケーター

オーバーダビング録音モードで録音中に、橙色に点灯します。

⑤ 3/4 [SOLO] ボタン

録音モードが4チャンネル録音モードのときに押すと、3/4チャンネルの入力レベル設定状態を示すメーターがディスプレーにプルアップ表示します。

1/2チャンネルの入力レベルメーターをプルアップ表示中に押すと、3/4チャンネルの入力レベルメーターのプルアップ表示に切り換わります。

DUAL ／ 4CHモードで録音または再生するときに長押しすると、モニターする音声を“**1-2**”からそれ以外に切り換える、**SOLO**ボタンとして機能します。

長押しすると3/4チャンネルのソロ機能となります。

⑥ 1/2 [SOLO] ボタン

1/2チャンネルの入力レベル設定状態を示すメーターがディスプレーにプルアップ表示します。
3/4チャンネルの入力レベルメーターをプルアップ表示中に押すと、1/2チャンネルの入力レベルメーターのプルアップ表示に切り換わります。
DUAL ／ 4CHモードで録音または再生するときに長押しすると、モニターする音声を **"1-2"** 以外から **"1-2"** へ切り換える、SOLOボタンとして機能します。
長押しすると1/2チャンネルのソロ機能となります。

⑦ ⏻/❙(HOME)[■] ボタン

再生中にこのボタンを押すと、その位置で再生を停止します（一時停止）。一時停止中にこのボタンを押すと、その再生ファイルの先頭に戻ります。
録音待機中または録音中にこのボタンを押すと、録音を停止します。
各種設定画面を表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。また、各種設定画面の操作では、確認のポップアップメッセージに対して「NO」と答えるときに使います。
長く押すと、電源のオン／オフの切り換えを行います。

⑧ ＋ボタン

ホーム画面を表示中にこのボタンを押すと、内蔵スピーカーまたは🎧/LINE OUT端子から出力される音量を大きくします。調節中は、ボリューム位置がディスプレーの下部にプルアップ表示されます。
再生コントロール画面を表示中にこのボタンを押すと、再生スピードを早くします。
各種設定画面での操作時、項目を選択したり選択肢／値を変更するときに使います。

⑨ MENUボタン

ホーム画面表示中にこのボタンを押すと、**"MENU"** 画面が表示されます。
各種設定画面を表示中に、このボタンを押したときも、**"MENU"** 画面に戻ります。
再生コントロール画面でIN点（ループ再生の始点）およびOUT点（終点）が設定されているときにこのボタンを押すと、ループ再生のオン／オフを切り換えます。

⑩ I◀◀ ボタン

再生中、またはファイルの途中で停止しているときにこのボタンを押すと、再生ファイルの先頭に戻ります。
現在位置から再生ファイルの先頭の間にIN点（ループ再生の始点）およびOUT点（終点）が設定されているときには、IN点（始点）またはOUT点（終点）に移動します。
ファイルの先頭で停止しているときに押すと、手前のファイルにスキップします。
押し続けると早戻しサーチを行います。
ENTER/MARKボタンを押しながらこのボタンを押すと、前のマークに移動します。
各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを左に移動します。
"BROWSE" 画面では、階層を戻ります。

⑪ PB CONTボタン

このボタンを押すと、再生コントロール画面が表示されます。
再生コントロール画面表示中にこのボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。
録音待機中にこのボタンを押すと、セルフタイマー機能のオフ、時間の切り換えをします。

⑫ −ボタン

ホーム画面を表示中にこのボタンを押すと、内蔵スピーカーまたは
Ω /LINE OUT端子から出力される音量を小さくします。

調節中は、ボリューム位置がディスプレーの下部にプルアップ表示されます。

再生コントロール画面を表示中にこのボタンを押すと、再生スピードを遅くします。

各種設定画面での操作時、項目を選択したり選択肢／値を変更するときに使います。

⑬ ディスプレー

各種情報を表示します。

⑭ PEAKインジケーター

録音する音のレベルが大きくなって歪む直前に赤く点灯します。

⑮ REC MODEボタン

このボタンを押すと、**"REC MODE"** 画面を表示します。

"REC MODE" 画面表示中にこのボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

⑯ RECORD [●] ボタン／ RECインジケーター

停止中に押すと録音待機状態になり、RECインジケーターが点滅します。

録音中に押すと、録音一時停止になります。

⑰ QUICKボタン

ホーム画面で停止中／一時停止中／再生中／録音待機中、および再生コントロール画面を表示中にこのボタンを押すと、クイックメニュー画面を表示します。ボタンを押したときの本機の状態で、表示される機能が異なります。

- **停止中：**現在の再生ファイルの削除、分割、レベルアライン機能、ミックスダウン機能
- **再生中／再生コントロール画面：**レベルアライン機能
- **録音待機中：**レベルコントロール機能、内蔵マイクの左右入換
- **"MIXER" 画面：**MSデコーダーの設定

"BROWSE" 画面および **"PLAYLIST"** 画面を表示中にこのボタンを押すと、ファイル／フォルダー操作のポップアップメニューを表示／非表示します。

⑱ ►►I ボタン

停止中または再生中にこのボタンを押すと、次のファイルにスキップします。

現在位置から再生ファイルの先頭の間にIN点（ループ再生の始点）およびOUT点（終点）が設定されているときには、IN点（始点）またはOUT点（終点）に移動します。

押し続けると早送りサーチを行います。

各種設定画面を表示中に、画面内のカーソルを右に移動します。

ENTER/MARKボタンを押しながらこのボタンを押すと、次のマークに移動します。

"BROWSE" 画面では、階層を進みます。ファイルが選択されているときは、ファイルをロードしてホーム画面に戻り停止します。

⑲ PLAY [►] ボタン

ホーム画面で停止中に押すと、再生を始めます。

再生中に押すと、ジャンプバック再生を行います。

"BROWSE" 画面で、ファイルまたはフォルダーを選択した状態でこのボタンを押すと、ホーム画面に戻り、そのファイルまたはフォルダーの最初から再生します。

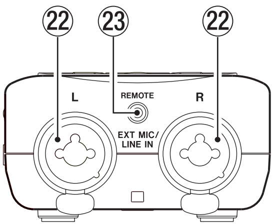
⑳ ENTER/MARKボタン

各種設定画面の操作では、選択されている項目を決定したり、確認のポップアップメッセージに対して「YES」と答えるときに使います。
録音中に手動でマークを付けるときに使用します。
このボタンを押しながら、⏮ボタンを押すと前のマークに、⏭ボタンを押すと次のマークへ移動します。また、再生コントロール画面表示中に、希望の区間をループ再生させるときのIN点（始点）とOUT点（終点）を設定します。
IN点（始点）とOUT点（終点）が設定されているときに、このボタンを押すと、IN点（始点）とOUT点（終点）がクリアされます。

㉑ MIXERボタン

このボタンを押すと、**"MIXER"** 画面を表示します。
"MIXER" 画面表示中に押すと、ホーム画面に戻ります。

フロントパネル



㉒ EXT MIC/LINE IN L ／ R端子（XLR ／ TRS）

XLRバランスタイプのアナログマイク入力と、TRS標準ジャックのバランスアナログ入力端子です。

XLR（1：GND、2：HOT、3：COLD）
TRS（Tip：HOT、Ring：COLD、Sleeve：GND）

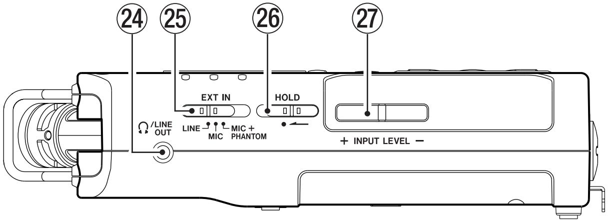
注 意

- これらのEXT MIC/LINE IN端子にライン機器を接続する場合は、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- EXT MIC/LINE IN端子にコンデンサーマイクを接続したり、接続しているコンデンサーマイクを外すときは、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でマイクを接続したり接続を外したりすると、マイクおよび本機の故障の原因になります。
- ファントム電源が供給されているXLRコネクターにアンバランスのダイナミックマイクを接続しないでください。マイクおよび本機の故障の原因になります。

㉓ REMOTE端子（φ2.5mm TRSジャック）

別売りの専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）、専用ワイヤードリモコン（TASCAM RC-10）を接続します。リモートコントロールによる再生、停止などの操作が可能になります。

左サイドパネル



㉔ 🎧 /LINE OUT端子

ヘッドホンまたはステレオミニジャックケーブルを使用して外部機器のライン入力端子と接続します。

㉕ EXT INスイッチ

EXT MIC/LINE IN端子のゲイン切り換えとファントム電源のオン／オフを選択します。

㉖ HOLDスイッチ

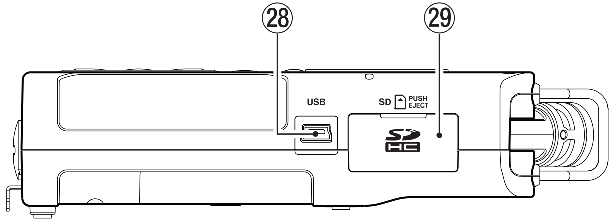
左側にセット（矢印の方向に移動）するとホールド機能が働きます。ホールド中は、全てのボタン操作を受付けません。

㉗ INPUT LEVEL（+ ／ー）ボタン

入力レベルを調節します。

調節中は、入力レベル設定状態をディスプレーにプルアップ表示します。

右サイドパネル



㉘ USB端子

付属のUSBケーブルを使って、パソコンと接続するためのUSBポートです。（ → 91ページ「パソコンと接続する」）

付属のUSBケーブルまたは別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）で電源を供給することができます。

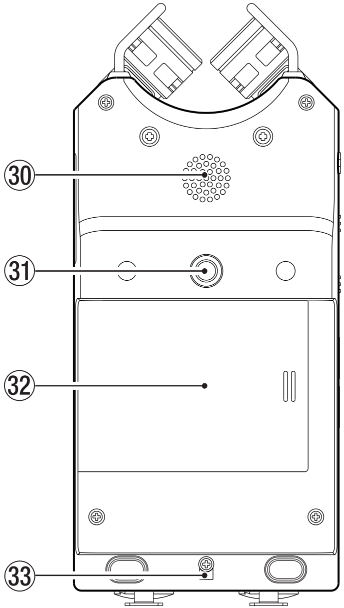
注 意

パソコンとの接続は、USBハブを経由せずに直接接続してください。

㉙ SDカードスロット

SDカードの挿入／取り出しをします。

ボトムパネル



⑳ 内蔵モノラルスピーカー

モニター用の内蔵スピーカーです。

以下の状態では、スピーカーから音は出力されません。

- 録音待機中
- 録音中
- オーバーダビングモード時
- ヘッドホン接続時
- スピーカー出力設定オフ時

㉛ 三脚またはチルトフット取り付け用穴（1 ／ 4インチ）

本体に三脚や付属のチルトフットを取り付けることができます。

注意

- 本体の落下を防ぐため、三脚またはマイクスタンド各部のねじを確実に締めてください。
- 三脚またはマイクスタンドに本体を取り付けて使用する場合は、三脚またはマイクスタンドを水平な場所に置いてください。

㉜ 電池ケース蓋

付属のチルトフットを使用しないときは、電池ケース蓋の内側の二つの突起の間に挟みこみ、収納ができます。

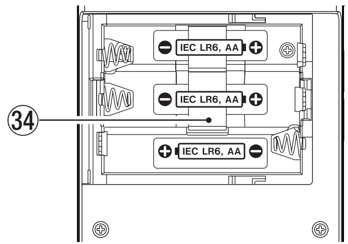
㉝ ストラップホルダー

ストラップを取り付けます。

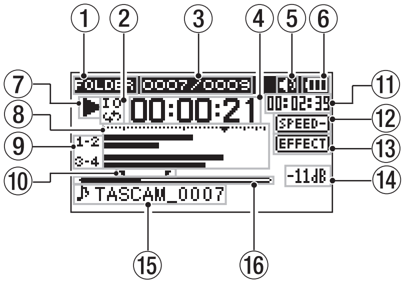
㉞ 電池ケース

本機の電源になる電池（単3形電池、3本）を収納するケースです。

（ → 33ページ「単3形電池で使用する」）



ホーム画面



① 再生範囲表示

現在の再生ファイルの範囲を表示します。

ALL	：MUSICフォルダー内の全ファイル
FOLDER	：選択したフォルダー内の全ファイル
PLAYLIST	：プレイリストに登録されたファイル

② ループ再生／リピート再生の設定状態表示

状況に応じて、以下のアイコンを表示します。

：シングル再生

：1ファイルリピート再生

：全再生ファイルリピート再生

：ループ再生

③ カレント再生ファイル番号／総ファイル数

再生対象範囲の総ファイル数と現在のファイル番号を表示します。

④ 経過時間表示

現在のファイルの経過時間（時：分：秒）を表示します。

⑤ スピーカー出力表示

アイコン表示あり：スピーカー出力オン

アイコン表示なし：スピーカー出力オフ

⑥ 電源供給の状態表示

電池供給時は、電池アイコンを表示します。

電池残量に応じて、目盛りが表示されます（“”、“”、“”）。

目盛り表示がなくなると“”が点滅し、電池切れのためにまもなく電源がオフになります。

別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）使用時およびUSBバスパワー供給時は、“”を表示します。

メモ

残量がなくなる前でも録音など消費電力の大きい動作を行おうとすると、**“Battery Low”**の警告のポップアップメッセージが出ることがあります。

⑦ レコーダーの状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
■	停止中
❚❚	一時停止中
►	再生中
►►	早送り中
◄◄	早戻し中
►►❙	次のファイルの先頭にスキップ
❙◄◄	現在または手前のファイルの先頭にスキップ

⑧ レベルメーター

入力音または再生音のレベルを表示します。

OVER DUB（MIX）時は、入力音と再生音をミックスしたレベルを表示します。

⑨ トラック状態表示

各録音モードにより表記が変わります。

L R：MONOモードまたはSTEREOモードで録音された再生ファイルを再生時

INT -6 / EXT -6：デュアル録音モードで録音された再生ファイルを再生時

1·2 3·4：4チャンネル録音モードで録音された再生ファイルを再生時

1·2 INT / 1·2 EXT：OVERDUB SEPARATEモード時

1·4 INT / 1·4 EXT：OVERDUB MIXモード時

メモ

ソロのときは、トラック名が反転表示（“1·2”）します。

⑩ ループ再生のIN点（始点）、OUT点（終点）の設定状況

ループ再生のIN点（始点）／ OUT点（終点）の設定状況を表示します。

IN点（始点）を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“ ”アイコンが表示されます。

OUT点（終点）を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“ ”アイコンが表示されます。

⑪ 残量時間表示

現在のファイルの残量時間（時：分：秒）を表示します。

⑫ 再生速度の状態表示

再生速度の設定に応じて、以下のアイコンを表示します。

アイコン	再生速度
SPEED	1倍
SPEED+	1.1～1.5倍
SPEED-	0.5～0.9倍
SPEED×	再生スピードの変更できないとき

⑬ エフェクターのオン／オフ状況表示

エフェクターのオン／オフ状態をアイコン表示します。

EFFECT：内蔵エフェクターオフ

EFFECT（反転）：内蔵エフェクターオン

⑭ ピーク値のデシベル（dB）表示

一定時間毎に、その期間の再生レベルの最大値を、デシベル表示します。

⑮ ファイル名表示

再生中のファイル名、またはタグ情報を表示します。

ID3タグ情報を持つMP3ファイルの場合は、ID3タグ情報が優先して表示されます。

4チャンネル録音モード、デュアル録音モード、オーバーダビング・セパレートモードで録音された複数ファイルの場合は、プロジェクト名を表示します。

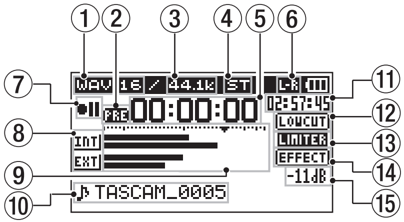
メモ

ID3タグ情報とは、MP3ファイルに保存可能なタイトルやアーティスト名の情報です。

⑯ 再生位置表示

現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

録音画面



① 録音フォーマット表示

録音ファイルのフォーマットを表示します。

WAV16 ／ WAV24 ／ BWF16 ／ BWF24 ／ MP3 320k ／ MP3 256k ／ MP3 192k ／ MP3 128k ／ MP3 96k ／ MP3 64k ／ MP3 32k

② プリレック機能またはオートレック機能の設定状態表示

プリレック機能が **"ON"** のかつ録音待機中は、"PRE"アイコンが表示されます。

オートレック機能が **"ON"** かつ録音中は、"AUTO"アイコンが表示されます。

③ 録音サンプリング周波数表示

録音ファイルのサンプリング周波数を表示します。

44.1k/48k/96kHz

④ 録音チャンネル数表示

録音ファイルのチャンネル数を表示します。

ST ／ MONO

⑤ 録音経過時間

録音ファイルの経過時間（時：分：秒）を表示します。

⑥ 内蔵ステレオマイクの左右設定表示

内蔵ステレオマイクの左右設定が、マイクの角度設定と合っていないときに、現在の左右設定状態を表示します。

アイコン	マイク角度	MIC設定
L-R	閉（X-Y）	L-R
R-L	開（A-B）	R-L

⑦ レコーダー動作状態表示

レコーダーの動作状況をアイコン表示します。

表示	内容
● ❚❚	録音待機中または録音一時停止中
●	録音中

⑧ 入力ソース表示

入力しているソースをアイコン表示します。

INT：内蔵マイクが入力ソースに設定

EXT：EXT MIC/LINE IN端子が入力ソースに設定

-6：デュアル録音時のDUAL側が入力ソースに設定
数値は設定値（**"-6"**～**"-12"**）

1·2：OVERDUB SEPARATEモード時、1/2チャンネルが
再生ファイルとなっている事を表示します。

1·4 INT：OVERDUB MIXモード時、再生ファイルと内蔵マイクが
ミックスされ入力ソースに設定

1·4 EXT：OVERDUB MIXモード時、再生ファイルと
EXT MIC/LINE IN端子がミックスされ入力ソースに設定

メモ

ソロのときは、トラック名が反転表示（**"1-2"**）します。

⑨ レベルメーター

入力音のレベルを表示します。
オーバーダビング中は、入力音と再生音をミックスしたレベルを表示します。目盛りには、－１２dBの位置に入力レベル調整時の目印となる"▼"マークがあります。

⑩ ファイル名表示

録音するファイルに自動的に付けられるファイル名を表示します。
4チャンネル録音モード、デュアル録音モード、オーバーダビング・セパレートモードで録音された複数ファイルの場合は、プロジェクト名を表示します。

⑪ 録音残時間

設定した最大ファイルサイズに対する残時間（時：分：秒）を表示します。ただし、SDカードの残り時間の方が少ない場合はそちらを表示します。

⑫ ローカットフィルターオン／オフ状態表示

ローカットフィルターのオン／オフ状態を表示します。**"40Hz"**、**"80Hz"**または**"120Hz"**設定時にアイコンを反転表示します。

LOWCUT：ローカットフィルターオフ

LOWCUT（反転）：ローカットフィルターオン

⑬ レベルコントロール機能状態表示

OFF：レベルコントロール機能オフ

PEAK：ピークリダクション

AUTO：オートレベル

LIMITER：リミッター

⑭ エフェクターのオン／オフ状況表示

エフェクターのオン／オフ状態をアイコン表示します。

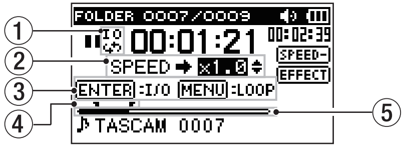
EFFECT：内蔵エフェクターオフ

EFFECT（反転）：内蔵エフェクターオン

⑮ ピーク値のデシベル（dB）表示

入力レベルのピーク値をデシベル表示します。

再生コントロール画面



① ループ再生の設定状態表示

ループ再生が有効なとき、“ ” アイコンが表示されます。

② 再生速度表示

再生速度が標準再生速度の何倍かで表示されます。

VSA機能（Variable Speed Audition：再生ファイルの音程を保ったまま再生スピードを変えることができる機能）が有効であることを示す **“VSA”** が先頭に表示されます。

③ 使用ボタン表示

再生コントロール画面を表示中に使用するボタンと、その用途を表示します。

ENTER：IN点（始点）、OUT点（終点）および
それらのクリアに使います。

MENU：ループ再生のオン／オフを切り換えるのに使います。

メモ

- この画面でQUICKボタンを押したときには、他の画面と異なり、クイックメニュー画面には **“LEVEL ALIGN”** のみが表示され、レベルアライン機能のみが使用できます。
- この画面では、録音はできません。また、⏮ ／ ⏭ ボタンはIN点（始点）／ OUT点（終点）または先頭／末尾へスキップし、前または次のファイルへのスキップはできません。

④ ループ再生のIN点（始点）、OUT点（終点）の設定状況

ループ再生のIN点（始点）／ OUT点（終点）の設定状況を表示します。

IN点（始点）を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“ ” アイコンが表示されます。

OUT点（終点）を設定すると、再生位置表示バー上の該当位置に“ ” アイコンが表示されます。

⑤ 再生位置表示

現在の再生位置をバー表示します。再生の経過とともに、左からバーが伸びていきます。

メニューの構成

MENUボタンを押すと、**"MENU"** 画面が表示されます。メニュー項目は、以下の通りです。

メニュー項目	機能	参照ページ
REC SETTING	録音の設定をします。	43ページ
PLAY SETTING	再生範囲、リピート再生、再生EQ、ジャンプバックの設定をします。	70ページ 75ページ 78ページ
BROWSE	カード内のファイル、フォルダーの操作をします。	66ページ
SPEAKER	内蔵スピーカーのオン／オフを設定します。	39ページ
OTHERS	OTHERSサブメニューを表示します。	

"MENU" 画面で **"OTHERS"** を選択すると、**"OTHERS"** サブメニュー画面が表示されます。サブメニュー項目は、以下の通りです。

サブメニュー項目	機能	参照ページ
INFORMATION	ファイル情報、SDカード情報、システム情報を表示します。	93ページ
TUNER	チューナーを使用します。	90ページ
EFFECT	エフェクターの設定をします。	86ページ
FILE NAME	ファイル名の設定をします。	97ページ
DATE/TIME	日時、時刻の設定をします。	36ページ
REMOTE	別売の専用フットスイッチ（TASCAM RC-3F）の設定、または別売のワイヤードリモコン（TASCAM RC-10）の設定を行います。	99ページ
SYSTEM	各種設定を行います。	95ページ

注意

- 録音待機中または録音中は、下記の画面と項目のみ表示されます。

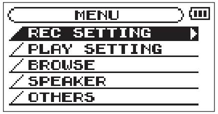
  "REC SETTING" 画面の **"LOW CUT"** 項目および **"AUTO REC"** 設定の **"MODE"** 項目と **"LEVEL"** 項目（**"AUTO REC"** 設定は表示のみ）

  "EFFECT" 画面の **"EFFECT"** 項目、**"PRESET"** 項目、**"LEVEL"** 項目、**"SOURCE"** 項目
- 再生コントロール画面では、MENUボタンを押しても **"MENU"** 画面は表示されません。ループ再生機能がオン／オフされます。
  （→ 76ページ「指定した区間を繰り返し再生する（ループ再生）」）

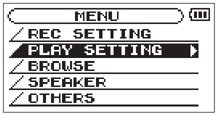
メニューを使う

再生範囲の設定を変更することを例に説明します。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。

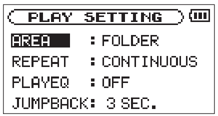


2. ＋ボタンまたは－ボタンを使ってメニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ▶▶I ボタンを押すと各種設定画面に移動します。



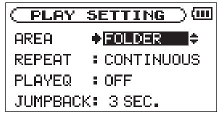
[PLAY SETTING 選択時]

3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って、設定する項目を選択（反転表示）します。



[AREA 選択時]

4. ENTER/MARKボタンまたは ▶▶I ボタンを押すと、設定内容にカーソルが移動します（反転表示）。



5. ＋ボタンまたは－ボタンを使って、設定を変更します。
6. 同じメニュー内で別の項目を設定する場合は、I◀◀ ボタンを押します。設定項目選択状態に戻りますので、＋ボタンまたは－ボタンを使って設定したい項目を選択（反転表示）します。
7. 必要に応じて、3. ～ 6.を繰り返して、各項目を設定します。
8. MENUボタンを押すと、**"MENU"** 画面（または **"OTHERS"** サブメニュー画面）に戻ります。⏻/I (HOME) [■] ボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

操作の基本

各種設定画面の操作には、次の操作子を使用します。

MENUボタン

“MENU”画面を呼び出します。

PB CONTボタン

再生コントロール画面を呼び出します。

⏻/❙ (HOME) [■] ボタン

各設定画面を表示中に ⏻/❙ (HOME) [■] ボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。確認のポップアップメッセージに対して「NO」を選択するときにも使用します。

ENTER/MARKボタン

各設定項目の選択を確定したり、確認のポップアップメッセージに対して「YES」を選択するときに使用します。

►►I ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を右に移動するときや、**“BROWSE”**画面でフォルダーを開くときに使用します。

I◄◄ ボタン

設定画面内のカーソル（反転表示部）を左に移動するときや、**“BROWSE”**画面でフォルダーを閉じるときに使用します。

＋ボタン

各項目を画面上方向に移動して選択したり、設定値を高い値／大きい値に変更するときに使用します。

－ボタン

各項目を画面下方向に移動して選択したり、設定値を低い値／小さい値に変更するときに使用します。

QUICKボタン

クイックメニュー画面を呼び出します。

- **停止中：**現在の再生ファイルの削除、分割、
  レベルアライン機能 、ミックスダウン機能
- **再生中／再生コントロール画面：**レベルアライン機能
- **録音待機中：**レベルコントロール機能、マイクの左右入換機能

“BROWSE”画面および**“PLAYLIST”**画面を表示中にポップアップメニューを表示／非表示します。
“MIXER”画面表示中に押すと、MSデコーダーを設定します。

REC MODEボタン

“REC MODE”画面を呼び出します。
“REC MODE”画面表示中に押すと、ホーム画面へ戻ります。

MIXERボタン

“MIXER”画面を呼び出します。
“MIXER”画面表示中に押すと、ホーム画面へ戻ります。

1/2 [SOLO] ボタン

1/2チャンネルの入力レベル設定状態を示すメーター表示を呼び出します。
DUAL ／ 4CHモードで録音または再生するときに長押しすると、ソロ機能となります。

3/4 [SOLO] ボタン

3/4チャンネルの入力レベル設定状態を示すメーター表示を呼び出します。
DUAL ／ 4CHモードで録音または再生するときに長押しすると、ソロ機能となります。

電源の準備

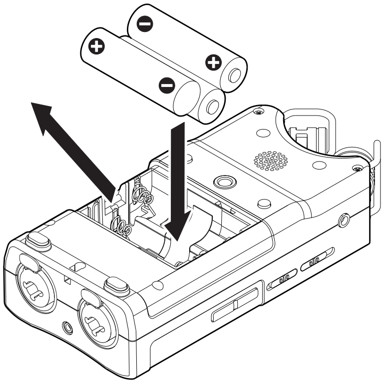
電源について

本機は、単3形電池3本、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）または付属のUSBケーブルを使って（USBバスパワー供給）、本機に電源を供給します。

本機は、単3形アルカリ乾電池、および単3形ニッケル水素電池も使用することができます。

単3形電池で使用する

本機の裏面にある電池ケースふたをスライドして取り外し、電池ケース内の⊕と⊖の表示に合わせて、単3形電池を3本セットして、電池ケースふたを取り付けます。



単3形電池で使用するとき、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量を識別するために、電池の種類を設定してください。（ → 95ページ「電池の種類の設定」）

注 意

- 単3形マンガン乾電池は、使用できません。
- 本機で単3形ニッケル水素電池を充電することはできません。市販の充電器をご使用ください。
- 付属のアルカリ乾電池は、動作確認用です。そのため寿命が短い場合があります。
- 一番下側の電池を入れる場合は、本体から出ているリボンを先に下に敷いてから入れてください。電池を取り出しづらくなる場合があります。

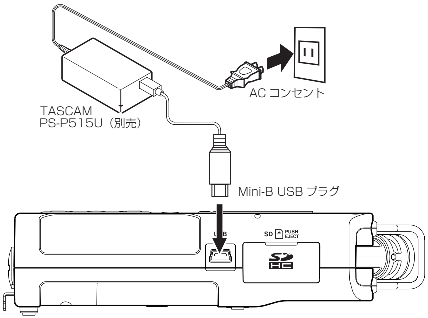
メ モ

コンデンサマイクへファントム電源を供給した場合は、電力を多く消費します。単3形電池（ニッケル水素電池またはアルカリ乾電池）で供給しているときに、コンデンサマイクを使用すると稼働時間が極端に短くなります。

長時間稼働させたい場合は、付属の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）、または付属のUSBケーブルを使って（USBバスパワー供給）、本機に電源を供給してご使用ください。

ACアダプターで使用する（別売）

図のように、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）と本機のUSB端子を付属のUSBケーブルで接続します。



メ モ

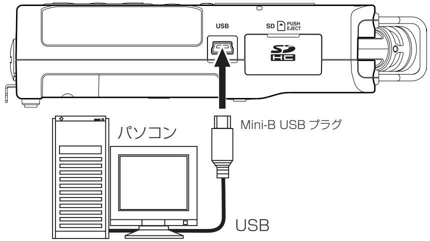
電池とACアダプターの両方をセットした場合は、ACアダプターから電源が供給されます。

注 意

- 必ず別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）をご使用ください。それ以外のものを使用すると故障、火災、感電の原因となります。
- 本体をACアダプターに近づけて使うと、マイク収録時にノイズが発生する場合があります。このようなときには、ACアダプターを本体から離してお使いください。

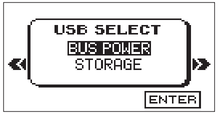
USBバスパワーで使用する

図のように、パソコンと本機を付属のUSBケーブルを使って接続します。



電源がオンのときにUSB接続する、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで供給するか、またはパソコンとUSB接続するかを選択する **"USB SELECT"** 画面が表示されます。

＋ボタンまたは－ボタンを使って **"BUS POWER"** を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押すと電源が**USB**端子から供給され、ホーム画面が表示されます。



メ モ

- 電池をセットした状態でUSB接続した場合は、USBから電源が供給されます（USBバスパワー優先）。
- ACアダプターでの使用もUSBケーブルを使用した接続のため、同じ方法になります。

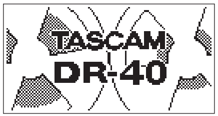
電源をオンにする／オフにする

注 意

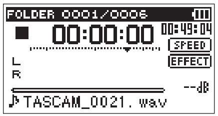
- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）使用時、およびパソコンとのUSBバスパワー接続で供給しているときは、電源をオフにするとスタンバイ状態になります。
- 本機の電源のオン／オフは、本機に接続しているモニターシステムのボリュームを絞った状態で行ってください。
- 電源のオン／オフ時にヘッドホンを装着しないでください。ノイズによっては、スピーカーや聴覚を損傷する恐れがあります。

電源をオンにする

電源がオフ時に、⏻/❙(HOME)［■］ボタンを長押しし、**“TASCAM DR-40”**（起動画面）が表示されたら離します。
本機が起動してホーム画面が表示されます。



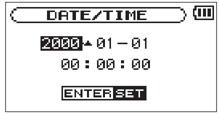
[起動画面]



[ホーム画面]

注 意

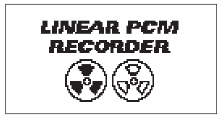
初回電源投入時（および電池がない状態でしばらく置いたため内蔵時計がリセットされたとき）には、起動画面が表示される前に、日時を設定する**“DATE/TIME”**画面が表示されます。



⏮ボタンまたは⏭ボタンを押して、カーソル（反転表示部）を移動し、+ボタンまたは−ボタンを使って値を変更します。
設定が完了したら、**ENTER/MARK**ボタンを押して確定します。
起動画面が表示され、起動が終了するとホーム画面が表示されます。
日時を設定せずに**ENTER/MARK**ボタンを押して起動させ、あとから日時を設定することもできます。（ → 36ページ「日時を設定する」）

電源をオフにする

電源オン時に、⏻/❙(HOME)［■］ボタンを長押しし、**“LINEAR PCM RECORDER”**と表示されたら離します。
シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフになります。



注 意

電源をオフにするときは、必ず⏻/❙(HOME)［■］ボタンで行ってください。
電源がオンのときに電池を外したり、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）で使用している時に電源コードを抜いたり、USBバスパワーで使用している時にUSBケーブルを抜くと録音データや設定などが全て失われます。なお、失われたデータや設定は、復活することができません。

リジューム機能

本機は、リジューム機能を搭載しており、電源をオンにしたときに、前回電源をオフにしたときの位置（時間）にロケートされます。
電源投入後、再生ボタンを押すと、電源をオフにした時点のファイルの再生位置（時間）から再生することが可能です。

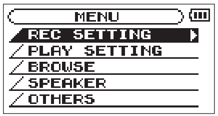
メモ

この内容は、SDカードに記録されているため、カードを入れ換えたり、フォーマットした場合にはリジュームできません。

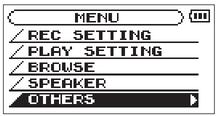
日時を設定する

本機は、本体内の時計をもとに、録音したファイルに日時を記録します。

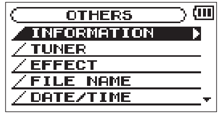
1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。



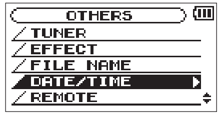
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"OTHERS"** メニュー項目を選択(反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。



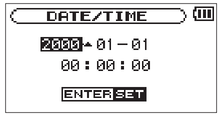
"OTHERS" 画面が表示されます。



3. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"DATE/TIME"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。



"DATE/TIME" 画面が表示されます。



4. I◄◄ ボタンまたは ►►I ボタンを押して、カーソル（反転表示部）を移動し、＋ボタンまたはーボタンを使って値を変更します。

5. ENTER/MARKボタンを押すと確定し、**"OTHERS"** 画面に戻ります。

メモ

ここで設定した日時をファイル名に付けることができます。（ → 97ページ「ファイル名の形式を設定する」）

注意

日時の設定は、電池のない状態または別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）の接続がない状態、USBバスパワーで動

作していない状態では、数分しか保持しません。
電池でお使いの場合は、完全に電池がなくなる前に電池交換することをお勧めします。

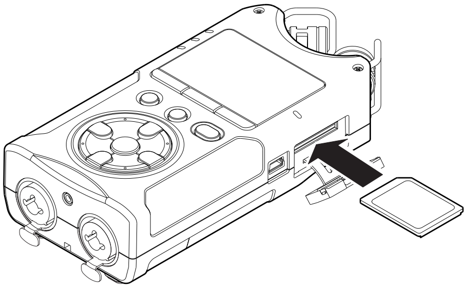
SDカードを挿入する／取り出す

挿入する

メモ

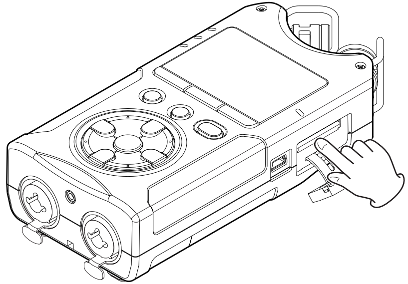
本機をお買い上げ時、SDカードスロットにSDカードが挿入されています。このSDカードをそのまま使って録音／再生を行う場合は、改めて挿入し直す必要はありません。

1. 右サイドパネルのSDカードスロットのカバーをあけます。
2. SDカードを図の方向にカチッと音がするまで差し込みます。



取り出す

1. SDカードスロットのカバーをあけます。
2. SDカードを軽く押し込んでから放すと手前に出てきます。

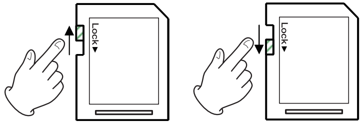


注意

- パソコンとUSB接続中、本機からSDカードを取り外さないでください。
- 使用できるSDカードは、SD/SDHC規格に対応したカードです。
- TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）には、当社で動作確認済みのSDカードのリストが掲載されています。

SDカードのライトプロテクトについて

SDカードには、プロテクト（書き込み防止）スイッチがついています。



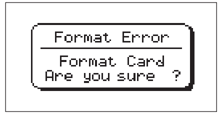
[書き込み可]　[書き込み不可]

プロテクトスイッチを [LOCK] の方向へスライドすると、ファイルの記録や編集ができなくなります。録音や削除などを行う場合は、プロテクト（書き込み防止）スイッチを解除してください。

SDカードを使えるようにする

本機でSDカードを使えるようにするために、本機でフォーマットする必要があります。

1. SDカードが挿入されていることを確認し、電源をオンにします。
2. 新しいカード、または本機以外でフォーマットされたカードを挿入したとき、以下のようなポップアップメッセージが表示されます。



3. **ENTER/MARK**ボタンを押すと、フォーマットを開始します。

注 意

フォーマットを行うと、カード上のデータはすべて消去されます。

4. フォーマットが終了するとホーム画面に戻ります。また、本機ではいつでもフォーマットを行うことができます。

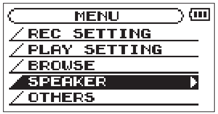
注 意

フォーマットは、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）を使用するか、パソコンとのUSBバスパワー接続状態で供給しているときに行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。

内蔵スピーカーで再生する

本機の内蔵スピーカーで再生音を聴く場合は、**“MENU”**画面内の**“SPEAKER”**設定項目をオンにしてください。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたは－ボタンを使って**“SPEAKER”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。



“SPEAKER”画面が表示されます。

3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って**“ON”**に設定します。

4. 設定が終了したら、⏻/❙（HOME）［■］ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

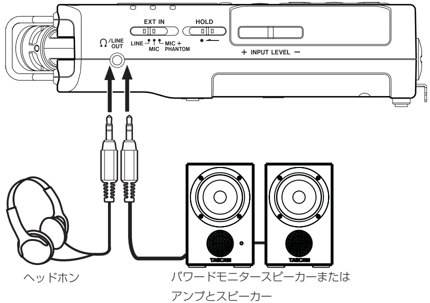
メモ

録音待機中または録音中のとき、またはヘッドホン／モニターシステムを接続すると、**“SPEAKER”**設定が**“ON”**に設定されていても、スピーカーから音は出力されません。

モニター用機器を接続する

ヘッドホンで聴く場合は、Ω /LINE OUT端子にヘッドホンを接続してください。

外部モニターシステム（パワードモニタースピーカーまたはアンプとスピーカー）で聴く場合は、Ω /LINE OUT端子に外部モニターシステムを接続してください。

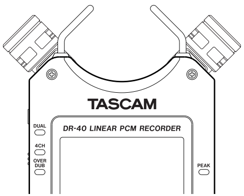


内蔵ステレオマイクについて

本機のステレオ内蔵マイクは可動式になっており、マイクの角度を変えることができるようになっています。録音のソースと状況またはお好みに合わせて、広がりのあるステレオ録音または位相差を抑えたクリアなステレオ録音を、内蔵マイクを開閉することで選ぶことができます。

広がりのあるステレオ録音設定をする（A-Bポジション）

マイクを左右に開きます（A-Bポジション）。
左右に大きく広がった、ステレオ感あふれる録音が可能です。
内蔵ステレオマイクを使用中にマイクを開閉して、内蔵ステレオマイクの左右設定が、マイクの角度設定と合わなくなったときに、マイクの左右設定を切り換えるかどうかのポップアップメッセージが表示されます。（ → 41ページ「マイク位置検出について」）

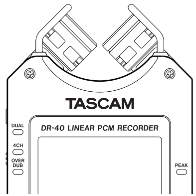


注 意

内蔵ステレオマイクの左右設定は、**"L-R"** に設定してください。
内蔵ステレオマイク使用時に、マイクを開いたときに左右設定が **"L-R"** になっていないときにはホーム画面に **"R-L"** アイコンが表示されます。（ → 41ページ「内蔵ステレオマイクの左右設定を切り換える」）

クリアなステレオ録音設定をする（X-Yポジション）

マイクを閉じた状態にします（X-Yポジション）。
この設定では、位相差を抑えたクリアなステレオ感のある録音が可能です。
内蔵ステレオマイクを使用中にマイクを開閉して、内蔵ステレオマイクの左右設定が、マイクの角度設定と合わなくなったときに、マイクの左右設定を切り換えるかどうかのポップアップメッセージが表示されます。（ → 41ページ「マイク位置検出について」）



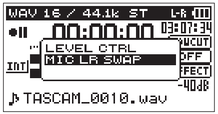
注 意

内蔵ステレオマイクの左右設定は **"R-L"** に設定してください。
内蔵ステレオマイク使用時に、マイクを閉じたときに左右設定が **"R-L"** になっていないときにはホーム画面に **"L-R"** アイコンが表示されます。（ → 41ページ「内蔵ステレオマイクの左右設定を切り換える」）

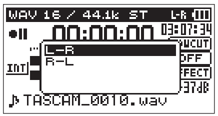
内蔵ステレオマイクの左右設定を切り換える

マイクの角度設定によって、左マイク、右マイクの入れ換えを行います。左右のマイクが開いている時には左のマイクが左チャンネル、右のマイクが右チャンネルとなる設定（A-Bポジション時：**“L-R”**）。マイクが閉じている時には左のマイクが右チャンネル、右のマイクが左チャンネルとなる設定（X-Yポジション時：**“R-L”**）にします。
内蔵ステレオマイク使用時に、この設定になっていない場合は、現在のマイク設定がホーム画面にアイコンで警告表示されます。

1. RECORD [●] ボタンを押して、録音待機状態にします。
   RECインジケーターが点滅し、録音画面が表示されます。
2. QUICKボタンを押します。
   クイックメニュー画面が表示されます。



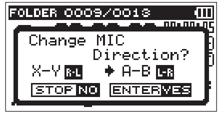
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“MIC LR SWAP”** が選択（反転表示）されている状態で、ENTER/MARKボタンを押します。
   LRスワップ設定ポップアップ画面が表示されます。



4. ＋ボタンまたはーボタンを使って、マイクの開閉状況に応じて **“L-R”** もしくは **“R-L”** を選択（反転表示）します。
5. ENTER/MARKボタンを押すと、選択が確定し、ホーム画面に戻ります。

マイク位置検出について

マイクを開いたり閉じたりして、内蔵ステレオマイクの左右設定が、マイクの角度設定と合わなくなったときに、以下のポップアップメッセージが表示されます。



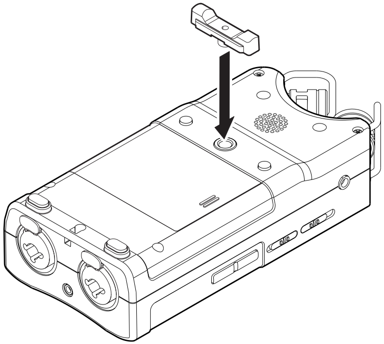
ENTER/MARKボタンを押すと、設定を変更します。
⏻/❙（HOME）[■] ボタンを押すと、設定を変更しません。

メモ

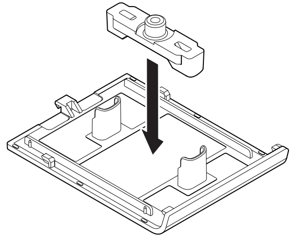
- この画面は、左側のマイクを開閉したときに自動的に表示されます。右側のマイクだけを開閉した場合は、表示されません。
- マイクの角度設定を変えてポップアップメッセージが表示されている場合は、ENTER/MARKボタンを押して **“L-R”** 設定を変更するか、⏻/❙（HOME）[■] ボタンを押して設定を変更しないか、マイクの角度をもとに戻してポップアップメッセージを閉じるまでは、録音を開始することができません。
- 録音中は、マイクの角度設定を変えても、このポップアップ画面はでません。RECORD [●] ボタンを押して録音待機状態にしてから、QUICKボタンを押して表示されるクイックメニュー画面の **“MIC LR SWAP”** 項目で切換を行ってください。（ → 41ページ「内蔵ステレオマイクの左右設定を切り換える」）

チルトフットを取り付ける

内蔵マイクで録音を行う際、電池ケース蓋側を下側にして置くとマイク側が低くなってしまうため、付属のチルトフットを三脚取り付け用穴に取り付けて、マイク側が低くならない状態にすることができます。
下記のように取り付けます。



使用しないときは、電池ケース蓋の内側に出ている二つの突起の間に挟むように収納し、携帯することができます。

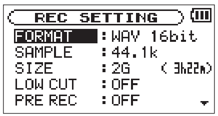


本機は、内蔵ステレオマイクを使った録音の他に、外部マイクあるいは外部オーディオ機器（CDプレーヤーなど）からの信号を録音することができます。録音オーディオファイル形式は、MP3（32k～320kbps、44.1k/48kHz）、WAV ／ BWF（44.1k/48k/96kHz、16/24ビット）から設定可能です。
BWFフォーマットに対応したWAVファイルは、録音中に付けたマークをBWF対応のソフトなどで使用することができます。
また本機では、オーディオファイルを再生しながら入力信号をミックスして別ファイルとして、あるいはミックスせずに別のファイルに録音すること（オーバーダビング機能）や、異なるレベルで２系統の録音を同時に行うこと（デュアル録音）や、外部マイクを使用して内蔵マイクと同時に4チャンネルの録音をすることなど、5つの録音モードがあります。

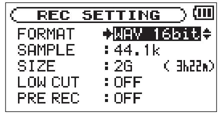
ファイル形式／サンプリング周波数／最大ファイルサイズを設定する（REC SETTING）

録音を実行する前に、録音オーディオのファイル形式を設定します。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“REC SETTING”** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
   “REC SETTING” 画面が表示されます。



＋ボタンまたはーボタンを使って **“FORMAT”** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。



ここでファイル形式を設定します。
＋ボタンまたはーボタンを使って、以下の中から設定します。

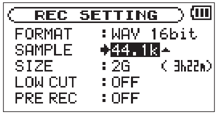
選択肢: “BWF 24bit”、**“BWF 16bit”**、**“WAV 16bit”**（初期値）、**“WAV 24bit”**、**“MP3 32k”** bps、**“MP3 64k”** bps、**“MP3 96k”** bps、**“MP3 128k”** bps、**“MP3 192k”** bps、**“MP3 256k”** bps、**“MP3 320k”** bps

メモ

- BWFは放送局用のフォーマットで、音質はWAVと同等です。ファイルの拡張子は **“.wav”** で、WAVファイルの拡張子と同じです。本誌では、BWFに対応したWAVファイルを「BWF」、BWFに対応していないWAVを「WAV」と表記します。
- WAV ／ BWFの方がMP3よりも高音質で録音ができます。
- MP3の方がWAV ／ BWFよりも長時間録音ができます。
- MP3の場合は、値が大きいほど高音質で録音ができます。

4. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態にします。

5. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“SAMPLE”** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンまたは**►►I**ボタンを押します。



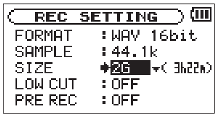
ここでサンプリング周波数を設定します。
＋ボタンまたはーボタンを使って **“44.1k”**（初期値）、**“48k”**、**“96k”** の中から設定します。

メモ

ファイル形式がMP3のときは、**“96k”** は選択できません。

6. **I◄◄**ボタンを押して、設定項目選択状態にします。

7. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“SIZE”** 項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンまたは**►►I**ボタンを押します。



ここで最大ファイルサイズを設定します。
＋ボタンまたはーボタンを使って **“64M”**、**“128M”**、**“256M”**、**“512M”**、**“1G”**、**“2G”**（初期値）の中から設定します。

メモ

- 録音中に、**“REC SETTING”** 画面で設定した最大ファイルサイズを超えると、新たな別のファイルとして録音を継続します。
- ファイル形式によって、同じ最大ファイルサイズにおける録音時間が異なります。
  この値は、設定値の右側にある括弧の中に表示されます。
- 録音時間が24時間を超える場合は、自動的に停止します。

8. 設定が終了したら、**⏻/I (HOME)**［■］ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

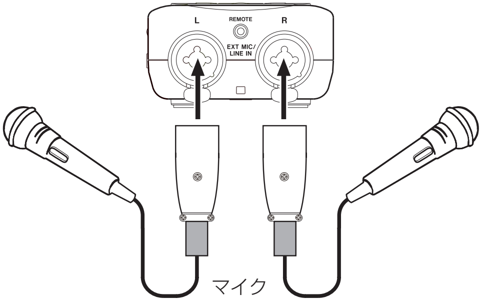
入力の設定をする

内蔵ステレオマイクで録音する

内蔵ステレオマイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。

外部マイクで録音する（EXT MIC IN）

外部マイクを本機のEXT MIC/LINE IN端子に接続します。
外部マイクを音源の方向へ向け、振動の少ない、安定した場所に設置してください。

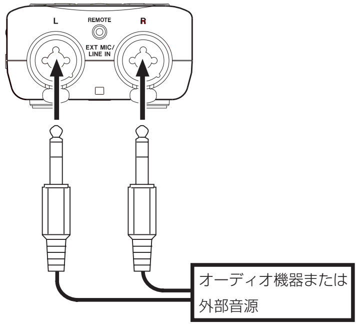


メモ

外部マイク使用時は、内蔵ステレオマイクおよびマイクの左右設定は無効となります。

外部機器から録音する（LINE IN）

ステレオプラグケーブルを使用して、外部オーディオ機器の出力と接続します。



注 意

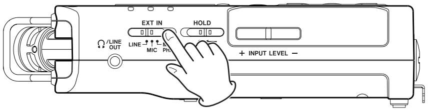
- 本機の入力レベルを調節しても、入力された音が歪んでいる場合は、外部機器の再生音量を小さくしてください。
- 外部機器の出力レベルを調節できないライン出力を接続した場合は、音量が大きい音源等などではレベルオーバーとなり、調節できない場合があります。その場合には、レベル調節可能なヘッドホン端子などを接続してください。

メモ

外部マイク使用時は、内蔵ステレオマイクおよびマイクの左右設定は無効となります。

外部入力の選択をする

入力ソースとして外部入力が選ばれているとき、接続されている外部機器に合わせて左サイドパネルのEXT INスイッチを選択します。



LINE：

外部機器のライン出力端子を本機器のアナログ入力に接続した場合は、LINEに設定します。

MIC：

マイクを本機に接続した場合は、MICに設定します。

MIC+PHANTOM：

ファントム電源（+24V ／ +48V）を必要とするコンデンサーマイクを本機に接続した場合は、MIC+PHANTOMに設定します。

注 意

この設定に合わせて入力レベルの設定範囲が切り換わります。そのため切り換えた時に入力レベルが大きく変化する場合がありますので、電源がオフの状態または出力レベルを絞り切った状態で切り換えてください。

ファントム電源について

左サイドパネルのEXT INスイッチをMIC+PHANTOMにすると、ファントム電源（+24V ／ +48V）がオンになりマイクに供給されます。

注 意

- EXT MIC/LINE IN端子にライン機器を接続する場合は、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でライン機器を接続すると、ライン機器および本機の故障の原因になります。
- EXT MIC/LINE IN端子にコンデンサーマイクを接続したり、接続しているコンデンサーマイクを外すときは、ファントム電源がオフになっていることを確認してください。ファントム電源が供給されている状態でマイクを接続したり、外したりすると、マイクおよび本機の故障の原因になります。
- ファントム電源を必要とするコンデンサーマイクを使用する場合のみ、ファントム電源をオンにしてください。
- リボンマイクロホンの中には、ファントム電源を供給すると故障の原因になるものがあります。疑わしい場合は、リボンマイクロホンにファントム電源を供給しないでください。
- USBバスパワーで使用する場合、使用されるパソコンによってはファントム電源が供給できない場合があります。その場合は、専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）をご使用ください。
- コンデンサーマイクによっては、+24Vに設定されたファントム電源では動作しないものもあります。
- ファントム電源使用中は、ACアダプターの抜き差しは行わないでください。本機の故障の原因になります。

入力レベルを調節する

録音した音もしくは信号が、入力が大きすぎて歪んでいたり、小さすぎてノイズに埋もれてしまうことを避けるために、録音する前に入力レベルを調節する必要があります。
手動で調節する機能の他にピークリダクション、オートレベル、リミッターの3つのレベルコントロール機能もありますので、お好みに応じてお使いください。

ヒント

入力レベルの調節だけでなく、マイクと音源との距離や向きを調節してみてください。また、マイクの向きや音源との距離によって音質が変わります。

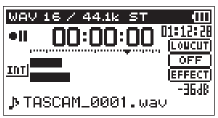
手動で入力レベルを調節する

入力のレベルを調節します。

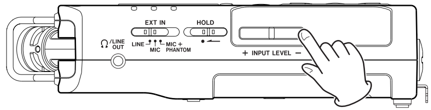
注 意

レベルコントロール機能のオートレベルを選択（録音画面の経過時間表示の右側に“ AUTO ”が表示）しているときは、手動での調節はできません。手動で入力レベルを調節するためには、レベルコントロール設定画面で**“OFF”**または他のモードを選択してください。
（ → 48ページ「レベルコントロール機能を使う」）

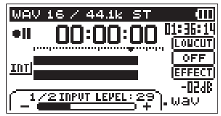
1. RECORD [●] ボタンを押して、録音待機状態にします。
REC インジケーターが点滅し、録音画面が表示されます。



2. 左サイドパネルのINPUT LEVEL（+ ／−）ボタンを使って、入力レベルを調節します。



左サイドパネルのINPUT LEVEL（+ ／−）ボタンを押すと、入力レベル設定状態を表すメーターがディスプレーの下部にプルアップ表示されます。



入力音が大きすぎる場合は、ディスプレーの右側のPEAKインジケーターが赤く点灯します。
レベルメーターには、−12dBの位置に“▼”の目印が付いています。この目印を中心にレベルが変化し、かつPEAKインジケーターが赤く点灯しないように入力レベルを設定してください。

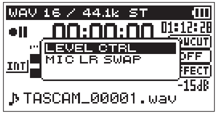
メ モ

- 録音待機状態を解除するには、⏻/❙ (HOME) [■] ボタンを押します。
- 録音待機中や録音中は、**“SPEAKER”**項目の設定がオンの場合でもスピーカーから音は出ません。
モニター音を聞きながら入力レベル調節や録音を行う場合は、ヘッドホンを本機の Ω /LINE OUT端子に接続してください。
モニター音は、ホーム画面表示中に＋ボタンまたは－ボタンで調節できます。モニター音量を変えても録音される音には、影響ありません。

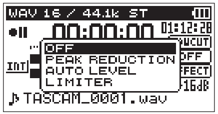
レベルコントロール機能を使う

マイク入力時の入力レベルコントロール機能を設定します。

1. RECORD［●］ボタンを押して、録音待機状態にします。RECインジケーターが点滅し、録音画面が表示されます。
2. QUICKボタンを押します。
   クイックメニュー画面が表示されます。



3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って **"LEVEL CTRL"** を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   レベルコントロール設定画面が表示されます。



   選択肢："**OFF**"（初期値）、"**PEAK REDUCTION**"、"**AUTO LEVEL**"、"**LIMITER**"

4. ＋ボタンまたは－ボタンを使って機能を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと機能が有効になり、録音画面に戻ります。
   選択されている機能は、録音画面にアイコンで表示されます。

PEAK REDUCTION（ピークリダクション）

入力音が大きすぎたときに、入力レベルを適度なレベルまで自動で下げる機能です。これにより難しい入力レベルの設定を簡単に行うことができます。入力レベルを上げたいときは、手動で行うことができます。

ヒント

たとえば、バンド演奏を録音するとき、実際に録音する前にピークリダクションのリハーサルを行うことができます。
録音待機状態でピークリダクションモードを選択し、入力レベルを最大にします。ここでリハーサル演奏を行うと、入力音に応じて適度なレベルまで入力レベルが下げられ、演奏に合わせた入力レベルが設定されます。
録音を開始する前にオフすれば設定された入力レベルで録音することができます。また、そのまま録音を行えば録音中も入力音に応じて入力レベルを自動調節できます。
ピークリダクションモードで入力レベルを自動設定した後、リミッターモードで録音することもできます。

AUTO LEVEL（オートレベル）

入力音が小さいときは大きく、大きいときは小さくなるように入力レベルを自動で調節するため、会議録音などに適しています。このモードでは、手動で入力レベルを変更することはできません。

LIMITER（リミッター）

突発的な過大入力による歪みを防ぐ機能です。
音量変化が激しいライブ録音などに適しています。
このモードでは、録音中でも手動で入力レベルを変更することができます。

注意

入力音が大きすぎるとリミッターをオンにしても歪んでしまう場合があります。そのときは、手動で入力レベル（"**INPUT LEVEL**"）を下げるか、音源から本体を離してください。LINE入力時は、レベルコントロールは使用できません。

録音モードについて

本機には、5つの録音モードがあります。
"REC MODE" 画面の **"REC MODE"** 項目にて、録音モードを設定します。
各録音モードにて設定する項目が異なります。

MONOモード

モノラル録音のモードです。

STEREOモード（初期値）

ステレオ録音のモードです。

DUALモード

一つの入力ソースで2種類の入力レベル設定（レベルコントロール設定画面）のファイルを作成するモードです。録音ファイルは、モノ x 2またはステレオx2となります。

4CHモード

内蔵マイクと外部入力を使用し同時に2系統の入力を2ファイルに録音するモードです。
録音ファイルは、ステレオ x 2となります。

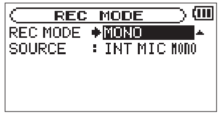
OVERDUBモード

再生ファイルに新たな音を加えて録音するモードです。
再生音と入力音をMIXして新しいファイルを作成する **"MIX"** モードと入力音のみの録音ファイルを作成する **"SEPARATE"** モードがあります。
２つのモードの選択は、この **"OVERDUB"** モードの中のパラメーター設定の中で行います。

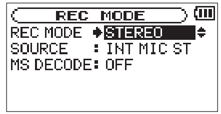
録音する（MONO ／ STEREO録音）

録音の設定をする

1. REC MODEボタンを押して、**"REC MODE"** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って、**"REC MODE"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って、**"MONO"** または **"STEREO"** に設定します。（初期値：**"STEREO"**）



[モノラル録音時]



[ステレオ録音時]

4. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
5. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"SOURCE"** 項目を選択（反転表示）し、ENTRY/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
6. ＋ボタンまたはーボタンを使って、入力ソースを設定します。

REC MODE	SOURCE（選択肢）	内容
MONO	INT MIC MONO（初期値）	内蔵マイクのL ／ Rをミックスしてモノラルで録音します
	EXT IN 1	外部入力のLをモノラル録音します
STEREO	INT MIC ST（初期値）	内蔵マイクでステレオ録音をします
	EXT IN 1/2	外部入力でステレオ録音をします

7. ⏮ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。

8. **“REC MODE”** 項目を **“STEREO”** に設定した場合は、MSマイクの設定を行います。
MSマイクを使用する場合は、＋ボタンまたは－ボタンを使って **“MS DECODE”** 項目を選択（反転表示）し、ENTRY/MARKボタンまたは ⏭ ボタンを押します。
“MS DECODE” 項目を＋ボタンまたは－ボタンを使って **“ON”** にします。

9. 設定が終了したら、⏻/❙ (HOME)[■] ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

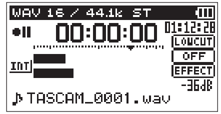
ファイルの保存先を設定する

録音したファイルの保存するフォルダーを設定します。録音したファイルは、カレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）に録音されます。詳細は、68ページ「フォルダー操作」の **“SELECT”** ポップアップメニュー項目を参照してください。特に指定しない場合は、《MUSIC》フォルダーの下にファイルが作成されます。

録音を開始する

1. RECORD [●] ボタンを押して、録音待機状態にします。

[モノラル録音時]

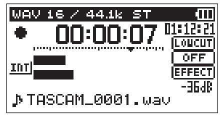


[ステレオ録音時]

録音画面の上側には、録音オーディオファイル形式およびサンプリング周波数、左側に入力ソース、下側には録音ファイル名が表示されますので、録音を開始する前に確認することができます。

2. 再度RECORD [●] ボタンを押します。通常の録音が始まります。

[モノラル録音時]



[ステレオ録音時]

録音が始まるとRECインジケーターが点灯し、ディスプレーには、録音経過時間および録音残時間が表示されます。

3. 録音を終了するには、⏻/❙ (HOME)[■] ボタンを押します。
録音を一時停止するには、RECORD [●] ボタンを押します。再度RECORD [●] ボタンを押すと、同じファイルに続きが録音されます。
一時停止後に ⏻/❙ (HOME)[■] ボタンを押すと、一時停止までを録音したオーディオファイルが作成されます。

メモ

本機は、RECORD［●］ボタンの操作音が録音されるのを避けるため、録音開始時にRECORD［●］ボタンが押されてから約0.3秒後（時間固定）に録音が開始されます。（レックディレイ機能）

注意

本体をACアダプターに近づけて使うと、マイク収録時にノイズが発生する場合があります。このようなときには、ACアダプターを本体から離してお使いください。

MONO ／ STEREO録音時のファイル名

$\underset{\text{①}}{\underline{\text{TASCAM}}}\_\underset{\text{②}}{\underline{\text{0001}}}\text{.WAV}$

①："**FILE NAME**"画面の"**WORD**"項目の設定による
②：録音ファイルの基本番号

異なる入力レベルで同時に2系統の録音をする（DUAL REC）

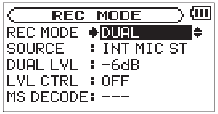
本機では、通常の録音とは別に、異なる入力レベルでもう一つの録音を同時に行うことができます。たとえば、マイク録音を行う際に、片方はできるだけ入力レベルを上げた状態で通常の録音をし、安全のために入力レベルを少し低めに設定したもう一つの録音を同時にするということができます。
録音ファイルは、2個（入力レベルを上げたファイル、入力レベルを下げたファイル）で保存されます。

メモ

- 通常の録音における入力レベル設定は､従来の方法（ → 45ページ「入力の設定をする」、→ 47ページ「入力レベルを調節する」）で行ってください。
- デュアル録音とオーバーダビングを同時に行うことはできません。
- 異なる入力レベルで録音するもう一つのファイルにエフェクトを掛けることはできません。

デュアル録音の設定をする

1. REC MODEボタンを押して、**“REC MODE”** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って、**“REC MODE”** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って、**“DUAL”** に設定します。



4. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
5. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“SOURCE”** 項目を選択（反転表示）し、ENTRY/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
6. ＋ボタンまたはーボタンを使って、入力ソースを設定します。

SOURCE（選択肢）	内容
INT MIC ST（初期値）	内蔵マイクでステレオ録音する
INT MIC MONO	内蔵マイクのL ／ Rをミックスしてモノラル録音する
EXT IN 1	外部マイクまたは外部機器からモノラル録音する
EXT IN 1/2	外部マイクまたは外部機器からでステレオ録音する

7. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
8. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“DUAL LVL”** 項目を選択（反転表示）し、ENTRY/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
9. ＋ボタンまたはーボタンを使って、デュアル録音するもう一つのファイルの入力レベルを設定します。

   設定値；**“-6dB”**（初期値）～ **“-12dB”**

10. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
11. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“LVL CTRL”** 項目を選択（反転表示）し、ENTRY/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
12. ＋ボタンまたはーボタンを使って、デュアル録音するもう一つのファイルの入力レベルコントロール機能を設定します。

LVL CTRL（選択肢）	内容
OFF（初期値）	レベルコントロールを行いません
PEAK REDUCTION	入力音が大きすぎたときに、入力レベルを適度なレベルまで自動で下げる機能です。これにより難しい入力レベルの設定を簡単に行うことができます。 入力レベルを上げたいときは、手動で行うことができます。
AUTO LVL	入力レベルが小さいときは大きく、大きいときは小さくなるように入力レベルを自動で調整するため、会議録音などに適しています。 このモードでは、手動で入力レベルを変更することはできません。
LIMITER	突発的な過大入力による歪みを防ぐ機能です。音量変化が激しいライブ録音などに適しています。 このモードでは、録音中でも手動で入力レベルを変更することができます。

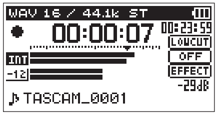
13. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。

14. MSマイクを使用する場合は、＋ボタンまたは－ボタンを使って **"MS DECODE"** 項目を選択（反転表示）し、ENTRY/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
"MS DECODE" 項目を＋ボタンまたは－ボタンを使って **"ON"** にします。（初期値：**"OFF"**）

15. 設定が終了したら、⏻/❙ (HOME)［■］ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

デュアル録音を開始する

RECORD［●］ボタンを押すと、デュアル録音が始まります。
デュアル録音時は、以下のような録音画面表示になります。



録音画面の入力ソース表示部に現在の入力ソースと、デュアル録音するもう一つのファイルの入力レベルを表示します。

デュアル録音時のファイル名

デュアル録音を行うと、2つのファイルが同時にできます。デュアル録音されたもう一つのファイルのファイル名は、通常録音されたファイルのファイル名に **"DXX"** が追加された名前になります。**"DXX"** は、下げた入力レベル幅です。

TASCAM_0002S12.WAV
（TASCAM ①　0002 ②　S ③　12 ④）

TASCAM_0002S34D12.WAV
（TASCAM ①　0002 ②　S ③　34 ④　D12 ⑤）

①：**"FILE NAME"** 画面の **"WORD"** 項目の設定による
②：録音ファイルの基本番号
③：**"S"** → ソースファイル
④：アサインチャンネル
（**"12"** → 1/2チャンネル、**"34"** → 3/4チャンネル）
⑤：入力レベルを－12dB設定でデュアル録音されたファイル
（例：－6dBでは **"D06"**、－10dBでは **"D10"**）

注 意

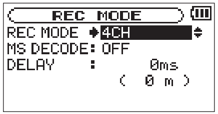
- 入力レベルが **"24"** 以下の場合、デュアル録音の効果が正しく得られない場合があります。
- **"LVL CTRL"** 項目が **"PEAK REDUCTION"** または **"AUTO LVL"** 時には、**"DUAL LVL"** 項目は変更できません。

4チャンネルで録音する

内蔵マイクと外部マイクまたは外部機器を接続して、独立した4チャンネルの録音行うことができます。
録音ファイルは、ステレオ x2（1/2チャンネル、3/4チャンネル）のファイルで保存されます。

4チャンネル録音を設定する

1. REC MODEボタンを押して、**“REC MODE”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って、**“REC MODE”**項目を選択し（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“4CH”**に設定します。



4. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
5. MSマイクを使用する場合は、＋ボタンまたはーボタンを使って**“MS DECODE”**項目を選択（反転表示）し、ENTRY/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
   “MS DECODE”項目を＋ボタンまたはーボタンを使って**“ON”**にします。
6. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
7. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“DELAY”**項目を選択（反転表示）し、ENTRY /MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
8. ＋ボタンまたはーボタンを使って、内蔵マイクと外部マイクの距離差に応じた値に設定します。

   設定値：**“INT 30ms (10m)”**～**“0ms (0m)”**（初期値）
   ～**“EXT 30ms (10m)”**

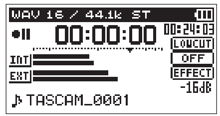
メモ

内蔵マイク（1/2チャンネル）と外部マイク（3/4チャンネル）の距離が離れている場合には、内蔵マイクと外部マイクとの間に時間差が生じることがあるため、**“Delay”**にて距離に応じた設定を行い、時間差をなくします。
録音の対象が内蔵マイクの近くにある場合は、外部マイクとの距離差に合わせた設定（**“INT XXms (XXm)”**）を内蔵マイク側に付けます。
録音の対象が外部マイクの近くの場合には、内蔵マイクまでの距離に応じた設定（**“EXT XXms (XXm)”**）を外部マイク側に付けます。

9. 設定が終了したら、⏻/ I (HOME)［■］ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

4チャンネル録音を開始する

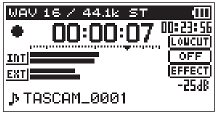
RECORD［●］ボタンを押して、録音待機状態にします。



メモ

録音画面の上側には、録音オーディオファイル形式およびサンプリング周波数、左側に入力ソース、メーターバーの下に録音プロジェクト名が表示されますので、録音を開始する前に確認することができます。

再度、RECORD [●] ボタンを押します。録音が始まります。



4チャンネル録音時のファイル名

4チャンネル録音では、2つのファイルが同時にできます。
内蔵マイク（1/2チャンネル）のファイルと外部マイクまたは外部機器（3/4チャンネル）のファイルがセットで作成されます。

TASCAM_0002S12.WAV
①　②　③　④

TASCAM_0002S34.WAV
①　②　③　④

①：**"FILE NAME"** 画面の **"WORD"** 項目の設定による
②：録音ファイルの基本番号
③：**"S"** → ソースファイル
④：アサインチャンネル
（**"12"** → 1/2チャンネル、**"34"** → 3/4チャンネル）

再生音に入力音を重ねて録音する（オーバーダビング）

既に録音したファイルを再生しながら、その再生音に入力音を重ねて新しいファイルとして録音することができるモードと、もとの録音ファイルを残したまま、新たな録音ファイルを加えることができるモードがあります。

メモ

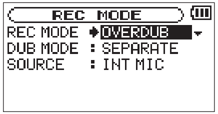
- オーバーダビングモードでは、プリレック機能／オートレック機能は無効になります。
- オーバーダビングモードでは、手動でファイルを更新することはできません。
- オーバーダビングモードでは、一時停止はできません（RECORD [●] ボタン操作を受け付けません）。
- オーバーダビングモードでは、録音フォーマット／サンプリング周波数の設定に関わらず、再生ファイルのフォーマット、サンプリング周波数となります。
- オーバーダビングとデュアル録音を同時に行うことはできません。
- オーバーダビングモードでは、MSデコーダーを使用することはできません。
- 再生ファイルがモノラルファイル時は、録音ファイルもモノラルとなります。

注意

再生ファイルがWAV ／ BWF 96kHzまたはMP3フォーマットで2ファイルの場合は、**"MIX"** モードで録音できません。ミックスダウンを使用して1ファイルにまとめてからオーバーダビングを行ってください。（→ 85ページ「ミックスダウン」）
再生ファイルがモノラルの場合は、**"SEPARATE"** モードで録音できません。**"MIX"** モードでご使用ください。

オーバーダビングの設定する

1. REC MODEボタンを押して、**"REC MODE"** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"REC MODE"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"OVERDUB"** に設定します。



4. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
5. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"DUB MODE"** 項目を選択（反転表示）し、ENTRY/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
6. ＋ボタンまたはーボタンを使って、オーバーダビングモードを設定します。

DUB MODE(選択肢)	内容
MIX	1/2チャンネル、3/4チャンネルのファイルの再生音と入力音をミックスして新たなファイルとして録音します。 再生ファイルは、上書きされません。
SEPARATE(初期値)	1/2チャンネルのファイルを再生しながら3/4チャンネルに新たなファイルとして録音します。 1/2チャンネルの再生音は、ミックスされません。 再生ファイルは、上書きされません。

注意

"SEPARATE" モードで録音されたファイルの中に再生音はミックスされません。

メモ

"SEPARATE" モードの録音は、再生音とは別のファイルに録音ファイルを作成するため、同じ再生音を使い何度も録音ができます。何度も録音した複数の録音ファイルの中から、後で聞き直して選択することも可能です。

7. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
8. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"SOURCE"** 項目を選択（反転表示）し、ENTRY /MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
9. ＋ボタンまたはーボタンを使って、入力ソースを設定します。

SOURCE（選択肢）	内容
INT MIC（初期値）	内蔵マイクで録音します。
EXT IN 1	外部入力から録音します。 ステレオファイルを作成する場合はL/Rとも同じ音が入ります。
EXT IN 1/2	外部入力から録音します。 録音ファイルがモノラルの場合は、**"L"** が録音されます。

10. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態に戻します。
11. 設定が終了したら、⏻/I (HOME)[■] ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

入力音を重ねるファイルを選択する

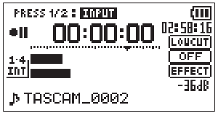
⏮ボタン、⏭ボタン、もしくは **“BROWSE”** 画面で、音を重ねたいファイルを選択します。

メモ

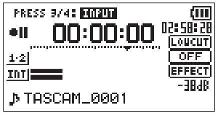
“BROWSE” 画面を使ってのファイルの選択は、66ページ「第5章 ファイルやフォルダーの操作（BROWSE画面）」を参照してください。

オーバーダビングを実行する

1. RECORD [●] ボタンを押して、録音待機状態にします。



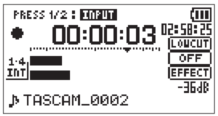
[MIX録音時]



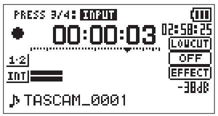
[SEPARATE録音時]

ミックスモード時は、**1/2 [SOLO]** ボタンを押すと入力音モニターがミュートされます。
セパレートモード時で再生ファイルが2ファイルの場合は、**3/4 [SOLO]** ボタンを押すと入力音と再生ファイルが切り換わります。
1ファイルのみの場合は、入力音がミュートされます

2. RECORD [●] ボタンを押します。オーバーダビングが始まります。

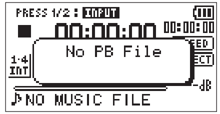


[MIX録音時]



[SEPARATE録音時]

録音が始まると **REC**インジケーターが点灯し、録音画面には録音経過時間および録音残時間が表示されます。
再生可能なファイルが選択されていないときは、次のようなポップアップメッセージが表示されます。



3. 録音を終了するには、⏻/❙(HOME)[■] ボタンを押します。

オーバーダビング録音時のファイル名

オーバーダビング録音では、**“DUB”** モードによってファイルの生成形式が異なります。

SEPARATEモードの場合

再生ファイル

File-A : TASCAM_0004S12.WAV
（①TASCAM ②0004 ③S ④12）

新規に録音されたファイル（再生音はミックスされず録音した音のみ）

File-B : TASCAM_0004S34.WAV
（①TASCAM ②0004 ③S ④34）

さらに同じ再生ファイル（File-A）を使用して録音する場合には、上記File-Bのファイルは下記のファイル（File-C）名に変更され、新たに録音されるファイルがFile-Bのファイル名になります。

File-C：TASCAM_0004V34t1.WAV
①　②　③④⑥

さらにまた同じ再生ファイル（File-A）を使用して録音する場合には（上記のFile-BとFile-Cが保存されている状態）、File-Bのファイルは下記のように、⑥の番号が１つずつ増えたファイル名に変更され、新たに録音されるファイルがFile-Bのファイル名になります。

File-D：TASCAM_0004V34t2.WAV
①　②　③④⑥

MIXモードの場合

再生ファイル

File-A：TASCAM_0004S12.WAV
①　②　③④

新規に録音されたファイル（再生音（File-A）とミックスされた音のみ）

File-E：TASCAM_0005S12.WAV
①　②　③④

さらに同じ再生ファイル（File-A）を使用して録音する場合には、新たに録音されるファイル名は下記のようになります。

File-F：TASCAM_0006S12.WAV
①　②　③④

このモードでは、同じ再生音を使用して録音する場合は、②の番号が増えるファイル名となっていきます。

①：**“FILE NAME”**画面の**“WORD”**項目の設定による
②：録音ファイルの基本番号
③：**“S”** → ソースファイル、**“V”** → バーチャルファイル
④：アサインチャンネル
（**“12”** → 1/2チャンネル、**“34”** → 3/4チャンネル）
⑥：バーチャルファイルの中のバックアップ通し番号

メモ

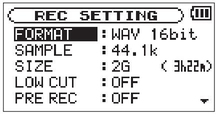
オーバーダビング・セパレートモードでは、再生ファイルのファイル名に録音ファイルの基本番号と**“S12”**が追加されます。

外部からコピーしたファイルが書き込み不可となっている場合は、パソコンなどで書き込みを許可してください。

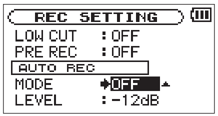
録音機能を自動で動作させる（AUTO REC）

入力音のレベルに応じて、録音の開始や一時停止とファイルの更新、マークの設定を自動で行う機能です。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“REC SETTING”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
   “REC SETTING”画面が表示されます。

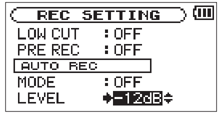


3. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“MODE”**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
4. ＋ボタンまたはーボタンを使って､AUTO RECのモードを設定します。



OFF（初期値）：オフ
REC：自動で録音と停止を行なうモード
MARK：録音中に自動でマークを付けるモード

5. I◄◄ ボタンを押して、設定項目選択状態にします。
6. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“LEVEL”**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。



7. ＋ボタンまたはーボタンを使って、信号が入力されたと判断する基準レベルを**“-6dB”**、**“-12dB”**（初期値）、**“-24dB”**、**“-48dB”**の中から設定します。
8. 設定が終了したら、⏻/ I (HOME)［■］ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。
9. RECORD［●］ボタンを押し、録音待機状態にします。入力音が**“LEVEL”**項目で設定した基準レベルを上回ると自動で録音を開始します。
10. 録音中の動作は**“MODE”**の設定により、次のようになります。

“REC”のとき：

入力音が**“LEVEL”**項目で設定した基準レベルを5秒以上にわたって下回ると録音待機状態になり、その後入力音が基準レベルを上回ると新しいファイルに録音を再開します。

“MARK”のとき：

入力音が**“LEVEL”**項目で設定した基準レベルを5秒以上にわたって下回った後に、入力音が基準レベルを上回るとその位置にマークを付けます。

11. 録音を停止させる場合は、⏻/❙ (HOME) [■] ボタンを押してください。

ヒント

プリレック機能と組み合わせることにより、音の出だし部分を欠かすことなく録音できます。

注 意

- オーバーダビングモードでは、オートレック機能は、使用できません。
- オートレック機能がオンの時には、オーバーダビングを除き、セルフタイマー機能は使用できません。

録音中にファイルを切り換えて録音を続ける（トラックインクリメント）

録音中に手動で、または設定した最大ファイルサイズになったときに自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録音を継続することができます（トラックインクリメント機能）。

録音中に手動でトラックインクリメントする

録音中に、いつでも簡単に手動でファイルを更新し、録音を継続することができます。

1. 録音中に、►►I ボタンを押します。

メ モ

新しいファイルが作成されると、プロジェクト名の末尾の数字が繰り上がります。

注 意

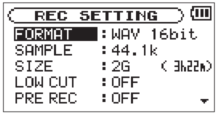
- フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。
- 録音時間が2秒以内のファイルを作成することはできません。また、サンプリング周波数が96kHzの場合は4秒以内のファイルを作成することはできません。
- 新たに作成するファイルのファイル名が既に存在する場合は、更に数字が繰り上がります。
- オーバーダビングモードでは、トラックインクリメント機能は使用できません。

ファイルサイズで自動的にトラックインクリメントする

録音中に、**"REC SETTING"** 画面で設定した最大ファイルサイズに達すると、自動的に現在のファイルへの録音を停止し、新しいファイルに録

音を継続します。
以下の手順で最大ファイルサイズの設定を行います。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“REC SETTING”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►Iボタンを押します。
   “REC SETTING”画面が表示されます。



3. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“SIZE”**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►Iボタンを押します。
   ＋ボタンまたはーボタンを使って、自動でトラックインクリメントする最大ファイルサイズを**“64M”**、**“128M”**、**“256M”**、**“512M”**、**“1G”**、**“2G”**（初期値）の中から設定します。
4. 設定が終了したら、⏻/❙(HOME)[■] ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

注 意

フォルダーとファイルの総数が5000個を超える場合は、新たなファイルは作成できません。

メ モ

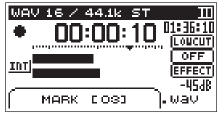
ファイル形式によっては、同じ最大ファイルサイズにおける録音時間が異なります。また、録音時間が24時間以上の場合は、23時間59分59秒として表示されます。

マーク機能

録音中に手動でマークを付ける

録音中に手動で任意の位置にマークを付けることができます。

1. 録音中にENTER/MARKボタンを押します。
   マーク番号がディスプレーの下部にプルアップ表示されます。



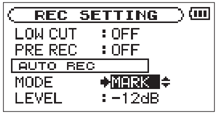
メ モ

- マークは、ファイルごとに**“01”**～**“99”**まで設定でき、ファイルにマークの情報を記録します。
- 本機で録音したWAVファイルは、BWFフォーマットに対応しているため、録音中に付けたマークの情報はファイルへ保存されます。BWF対応ソフトなどで、このマーク情報を使用することができます。
- 内蔵マイク使用時にマークを付けるとボタンを押す音が録音される場合があります。この場合は、リモートコントローラをご使用ください。

録音中に自動でマークを付ける

オートレック機能により自動でマークをつけるように設定することができます。

“REC SETTING” 画面内 **“AUTO REC”** 設定の **“MODE”** 項目を **“MARK”** に設定します。



詳細は、59ページ「録音機能を自動で動作させる（AUTO REC)」を参照してください。

マークの位置への移動

停止中または再生中に、選択されているファイルに挿入されているマークの位置へ移動することができます。

頭出しのためのインデックスのように使用することができます。

1. 停止中または再生中にENTER/MARKボタンを押しながら、.ボタンまたは/ボタンを押します。

メモ

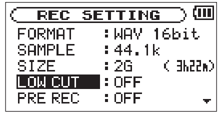
異なるファイルのマークへの移動はできません。

ローカットフィルターを設定する

ローカットフィルターを使用すると、空調機やプロジェクターなどによるノイズや耳障りな風切音などのノイズを低減することができます。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“REC SETTING”** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは/ボタンを押します。

   “REC SETTING” 画面が表示されます。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“LOWCUT”** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは/ボタンを押します。



＋ボタンまたはーボタンを使って、マイク入力時のローカットフィルダーのカットオフ周波数を設定します。

選択肢：**“OFF”**（初期値）、**“40Hz”**、**“80Hz”**、**“120Hz”**

注 意

- LINE入力を選択したときには、ローカットフィルタを使用することはできません。
- マイクを使って録音を行うときは、モニターシステムにヘッドホンを使って行ってください。スピーカーを使ってモニターすると、スピーカーの出力音が入力されて、正常な音で録音できなかったり、ハウリング（フィードバック）を起こす可能性があります。

メモ

“LOW CUT” の項目は、録音中および録音待機中でも設定／変更することができます。

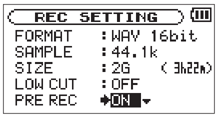
ヒント

本機には、エフェクターが内蔵され、必要に応じて入力ソースに掛けることができます。（ → 86ページ「エフェクター」）

録音開始の少し前から録音する（PRE REC）

録音待機中に入力される信号を最大2秒間録音しておき、録音開始時に最大2秒前からの信号を録音することができます。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“REC SETTING”** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
   “REC SETTING” 画面が表示されます。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“PRE REC”** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
4. ＋ボタンまたはーボタンを使って、**“ON”** に設定します。（初期値：**“OFF”**）



5. 設定が終了したら、⏻/I (HOME)［■］ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

ヒント

オートレック機能と組み合わせることにより、出音の部分を欠かすことなく録音できます。

メモ

- 録音待機状態になってから2秒以内に録音を開始した場合は、録音待機状態にした時点からの録音となります。
- オーバーダビングモードでは、プリレック機能は無効になります。

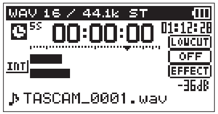
セルフタイマー機能

カメラのセルフタイマーのように、設定時間経過後に録音を開始するように設定ができます。

1. 停止中または再生中にRECORD［●］ボタンを押して録音待機状態にし、PB CONTボタンを押します。
2. レコーダーの動作状態表示部が、セルフタイマーアイコン“”に変わり、その右に時間が表示されます。
   PB CONTボタンを押すたびに、以下のように設定が変わります。

   “”アイコン右の時間表示

   “OFF”（初期値）→ **“5S”**（5秒）→ **“10S”**（10秒）→ **“OFF”**



3. 時間を設定後、RECORD［●］ボタンまたはPLAY［►］ボタンを押します。
   設定時間経過後、録音が開始されます。

メモ

- 録音中に一時停止したときにはセルフタイマー機能は、使用できません。
- オートレック機能がオンの時にはセルフタイマーは使用できません。

ソロ機能

1/2［SOLO］ボタンまたは3/4［SOLO］ボタンを長押しすると、ソロ機能の設定を行うことができます。
4チャンネルモードなどで複数の入力が録音対象となっている場合に使用し、どちらか一方の入力のみをモニターすることができます。
ソロ状態は、入力ソースのアイコンで確認することができます。

録音時間について

各ファイルフォーマットにおける、SD ／ SDHCカード容量別の録音時間を以下の表に示します。

ファイルフォーマット（録音時の設定）			SD ／ SDHCカード容量			
			1GB	2GB	4GB	8GB
WAV ／ BWF 16ビット（STEREO）		44.1kHz	1時間41分	3時間22分	6時間44分	13時間28分
		48kHz	1時間33分	3時間06分	6時間12分	12時間24分
		96kHz	46分	1時間33分	3時間06分	6時間12分
WAV ／ BWF 24ビット（STEREO）		44.1kHz	1時間07分	2時間15分	4時間30分	9時間00分
		48kHz	1時間02分	2時間04分	4時間08分	8時間16分
		96kHz	31分	1時間02分	2時間04分	4時間08分
MP3（STEREO ／ MONO）	32kbps	44.1kHz ／ 48kHz	74時間32分	149時間04分	298時間08分	596時間16分
	64kbps	44.1kHz ／ 48kHz	37時間16分	72時間32分	149時間04分	298時間08分
	96kbps	44.1kHz ／ 48kHz	24時間50分	49時間40分	99時間20分	198時間40分
	128kbps	44.1kHz ／ 48kHz	18時間38分	37時間16分	74時間32分	149時間04分
	192kbps	44.1kHz ／ 48kHz	12時間25分	24時間50分	49時間40分	99時間20分
	256kbps	44.1kHz ／ 48kHz	9時間19分	18時間37分	37時間16分	74時間32分
	320kbps	44.1kHz ／ 48kHz	7時間27分	14時間54分	29時間48分	59時間36分

- 上記録音時間は目安です。ご使用のSD ／ SDHCカードにより異なる場合があります。
- 上記録音時間は連続録音時間ではなく、SD ／ SDHCカードに可能な録音合計時間です。
- WAV形式のMONO録音の場合は、上記録音時間の約2倍の時間となります。
- WAV ／ BWF形式のデュアル録音／ 4チャンネル録音の場合は、上記録音時間の約半分の時間となります。

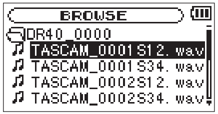
第5章　ファイルやフォルダーの操作（BROWSE画面）

“BROWSE”画面では、SDカード上の**“MUSIC”**フォルダー（オーディオファイルの収納フォルダー）の内容を見ることができます。また、この画面で選択したオーディオファイルの再生や削除、フォルダーの作成やプレイリストへの登録などができます。（ → 72ページ「プレイリスト」）

ヒント

本機とパソコンをUSB接続するか、あるいはSDカードを直接パソコンにセットすることにより、パソコンからも**“MUSIC”**フォルダー内のフォルダー構成の変更やファイルの削除ができます。さらにパソコンからはファイル名の編集が可能です。

“BROWSE”画面を表示するには、MENUボタンを押して**“MENU”**画面を表示し、＋ボタンまたはーボタンを使って**“BROWSE”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶I ボタンを押します。



この画面には、**“BROWSE”**画面を表示する前に、ホーム画面で選択されていたファイルを含むフォルダーの内容が表示されます。

BROWSE画面内のナビゲーション

“BROWSE”画面には、パソコンにおけるファイルのリスト表示のように、フォルダーや音楽ファイルが「階層ツリー形式」で表示されます。フォルダーは、第2階層まで作成できます。

- ＋ボタンまたはーボタンを使って、ファイルやフォルダーを選択します。
- フォルダーを選択中（反転表示中）に▶▶I ボタンを押すと、フォルダーの内容が表示されます。
- ファイルやフォルダーを選択中（反転表示中）にI◀◀ ボタンを押すと、現在開いているフォルダーが閉じて、上位の階層レベルが表示されます。
- フォルダーやファイルを選択中（反転表示中）にQUICKボタンを押すと、ポップアップメニューが表示されます。
- ファイルを選択中（反転表示中）にENTER/MARKボタンまたは▶▶I ボタンを押すと、ホーム画面に戻りそのファイルが再生されます。このファイルを含むフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルはここに記録されるようになります。また、再生範囲設定が**“FOLDER”**の場合は、このフォルダーが再生範囲になります。
- フォルダーが選択中（反転表示中）にENTER/MARKボタンを押すと、ホーム画面に戻り、そのフォルダーの最初のファイル（リスト表示したときに一番上に表示されるファイル）が再生されます。
  このフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルはここに記録されるようになります。また、直前の再生範囲設定にかかわらず、再生範囲設定が**“FOLDER”**になり、このフォルダーが再生範囲になります。

BROWSE画面内のアイコン表示

以下に **"BROWSE"** 画面内のアイコン表示内容を説明します。

MUSICフォルダー（ ）MUSIC

ルート（ROOT）階層表示中の **"BROWSE"** 画面では、最上段にMUSICフォルダーが表示されます。

オーディオファイル（ ♫ ）

音楽ファイルは、" ♫ " アイコンのあとにファイル名が表示されます。

フォルダー（ ）

内部にフォルダーが存在するフォルダーです。

フォルダー（ ）

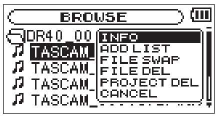
内部にフォルダーが存在しないフォルダーです。

表示中のフォルダー（ ）

現在、このフォルダーの内容を画面表示しています。

ファイル操作

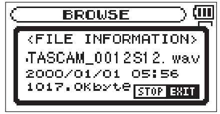
"BROWSE" 画面内の希望のオーディオファイルを選択（反転表示）し、QUICKボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



＋ボタンまたは－ボタンを使って希望の項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、本機が以下の動作を行います。

INFO

選択したファイルの情報（日付、サイズ）が表示されます。再度ENTER/MARKボタンを押すか、⏻/❙ (HOME)［■］ボタンを押すと、**"BROWSE"** 画面に戻ります。



ADD LIST

プレイリストに選択したファイルを登録します。（ → 72ページ「プレイリスト」）

FILE SWAP

下記の録音モードで録音されたファイルの入れ換えができます。

4CHモードの場合：

録音された内蔵マイク（1/2チャンネル）のファイルと外部マイクまたは外部機器（3/4チャンネル）のファイルが入れ換えることができます。

例) TASCAM_0002S12.WAV → TASCAM_0002S34.WAV
TASCAM_0002S34.WAV → TASCAM_0002S12.WAV

OVERDUB（SEPARATE）モードの場合：

① 再生ファイルと新規に録音されたファイルの入れ換えることができます。

例) TASCAM_0004S12.WAV → TASCAM_0004S34.WAV
TASCAM_0004S34.WAV → TASCAM_0004S12.WAV

上記は、57ページのFile-AとFile-Bが入れ換えできることを意味します。

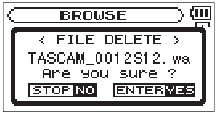
② 新規に録音されたファイルとそれによって保存されたバーチャルファイルを入れ換えることがができます。

例）TASCAM_0004S34.WAV → TASCAM_0004V34t1.WAV
TASCAM_0004V34t1.WAV → TASCAM_0004S34.WAV

上記は、57 ／ 58ページのFile-BとFile-Cが入れ換えできることを意味します。また、上記入れ換え時には、バーチャルファイルを自由に選べるため、57 ／ 58ページのFile-BとFile-Dを入れ換えることもできます。
ただし、バーチャルファイル同士（例えば58ページのFile-CとFile-D）は、入れ換えることはできません。

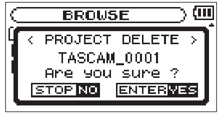
FILE DELETE

選択したファイルを削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。
ENTER/MARKボタンを押すとファイルが削除され、⏻/❙ (HOME) [■] ボタンを押すと削除が中止されます。



PROJECT DEL

選択したファイルが属するプロジェクトを削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。
ENTER/MARKボタンを押すとプロジェクトごと削除され、⏻/❙ (HOME)[■] ボタンを押すと削除が中止されます。



注 意

選択したプロジェクト内のファイルがすべて削除されます。

CANCEL

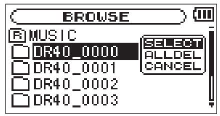
選択中（反転表示中）のファイルに関する操作をキャンセルしポップアップメニューを閉じます。

メ モ

QUICKボタンを押すことでポップアップメニューを閉じることもできます。

フォルダー操作

"BROWSE" 画面内の希望のフォルダーを選択し、QUICKボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



＋ボタンまたは－ボタンを使って希望の項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと本機が以下の動作を行います。

SELECT

ホーム画面に戻り、選択したフォルダー内の最初のファイルが選択されます。直前の再生範囲設定にかかわらず、再生範囲設定が **“FOLDER”** になり、このフォルダーが再生範囲になります。また、この操作で選択されたフォルダーに、録音したファイルが保存されます。

ALL DEL

選択したフォルダー内のファイルを一括削除する確認のポップアップメッセージが表示されます。

ENTER/MARKボタンを押すとファイルが削除され、⏻/I (HOME) [■] ボタンを押すと削除が中止されます。

メモ

書き込み禁止ファイルや本機で認識されていないファイルは、削除されません。

CANCEL

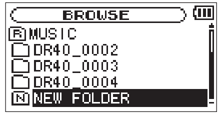
選択中（反転表示中）のフォルダーに関する操作をキャンセルしポップアップメニューを閉じます。

メモ

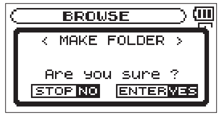
QUICKボタンを押すことでポップアップメニューを閉じることもできます。

新しいフォルダーを作る

各フォルダーの一番下に、**“NEW FOLDER”** があります。



“NEW FOLDER” を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ▶▶I ボタンを押します。新たなフォルダーを作成する確認のポップアップメッセージが表示されます。



ENTER/MARKボタンを押すとフォルダーが作成され、⏻/I (HOME) [■] ボタンを押すと作成が中止されます。ただし、本機では3階層以上のフォルダーを扱うことはできないため、第2階層のフォルダーには **“NEW FOLDER”** はありません。新規に作成されたフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルはここに記録されるようになります。また、再生範囲設定が **“FOLDER”** の場合は、このフォルダーが再生範囲になります。

ホーム画面上では、⏮ボタンまたは⏭ボタンを使って再生するファイルを選びます。このときに選択可能なファイルの範囲を「再生範囲」として設定することができます。SDカード上に数多くのファイルが記録されている場合など、選択範囲を限定することにより選択が容易になります。

"PLAY SETTING" 画面で、「全ファイル」、「現在のフォルダー」、「プレイリスト」の中から再生範囲を選択することができます。また、**"BROWSE"** 画面を使って希望のフォルダーを再生範囲に設定することができます。

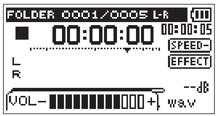
メモ

"BROWSE" 画面では、再生範囲設定にかかわらず、カード上の希望のファイルを選択することができます。

再生の音量を調節する

内蔵スピーカーまたは 🎧 /LINE OUT端子から出力される音量を、ホーム画面表示中に＋ボタンまたは－ボタンを使って調節します。

このとき、ボリューム位置がディスプレーの下部にプルアップ表示されます。

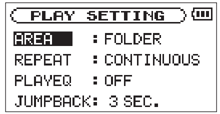


再生範囲を設定する（AREA）

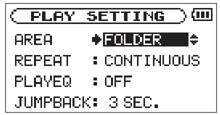
"PLAY SETTING" 画面で再生範囲を設定することができます。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたは－ボタンを使って **"PLAY SETTING"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは⏭ボタンを押します。

   "PLAY SETTING" 画面が表示されます。



3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って **"AREA"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは⏭ボタンを押します。



4. ＋ボタンまたは－ボタンを使って、再生範囲を設定します。

   ALL FILES：

   SDカード上のMUSICフォルダー内の全ファイルを再生することができます。

   FOLDER（初期値）：

   現在選択中のファイルが含まれているフォルダー内のファイルを再生することができます。

PLAYLIST：

プレイリストに登録されているファイルを再生することができます。（→ 72ページ「プレイリスト」）

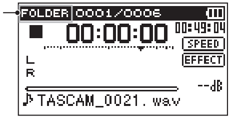
プレイリストが存在しない場合は、ポップアップメッセージ **"No PLAYLIST"** を表示します。

5. 設定が終了したら、⏻/❙(HOME)[■] ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

メモ

現在の再生範囲設定が、ホーム画面左上部に表示されます。

再生範囲表示

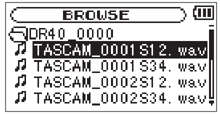


BROWSE画面を使って再生範囲のフォルダーを選択する（1）

現在の再生範囲にかかわらず、**"BROWSE"** 画面でフォルダーを選択すると、選択したフォルダーが再生範囲になります。

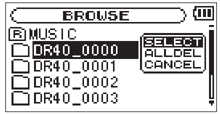
1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"BROWSE"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。

"BROWSE" 画面が表示されます。



ホーム画面で選択されていたファイルを含むフォルダーの内容が表示されます。

3. I◄◄ ボタンまたは ►►I ボタンを使って階層を移動し、＋ボタンまたはーボタンを使って、フォルダーを選択（反転表示）します。
   "BROWSE" 画面でのナビゲーション操作については、「BROWSE画面内のナビゲーション」（66ページ）をご覧ください。
4. QUICKボタンを押すと、以下のポップアップメニューが表示されます。



＋ボタンまたはーボタンを使って **"SELECT"** を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。

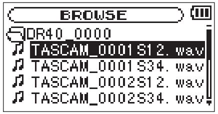
ホーム画面に戻り、フォルダー内の最初のファイルが選択され、停止状態になります。

以前の再生範囲設定にかかわらず、再生範囲設定が **"FOLDER"** になり、このフォルダーが再生範囲になります。また、このフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルもここに保存されるようになります。

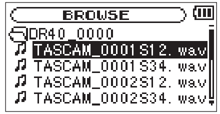
BROWSE画面を使って再生範囲のフォルダーを選択する（2）

再生範囲が **“FOLDER”** のとき、**“BROWSE”** 画面でファイルを選択すると、選択したファイルを含むフォルダーが再生範囲になります。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“BROWSE”** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
   “BROWSE” 画面が表示されます。



   ホーム画面で選択されていたファイルを含むフォルダーの内容が表示されます。
3. I◄◄ ボタンまたは ►►I ボタンを使って階層を移動し、＋ボタンまたはーボタンを使って再生したいファイルが入っているフォルダーを選択（反転表示）します。
   “BROWSE” 画面でのナビゲーション操作については、「BROWSE画面内のナビゲーション」（66ページ）をご覧ください。
4. ►►I ボタンを押します。
5. 再生したいファイルを選択（反転表示）します。



6. ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
   ホーム画面に戻り、選択したファイルが再生されます。また、このフォルダーがカレントフォルダー（現在選択されているフォルダー）になり、録音したファイルもここに保存されるようになります。
   再生範囲が **“FOLDER”** に設定されていた場合は、選択したファイルを含むフォルダーが再生範囲になります。

プレイリスト

再生するファイルのリスト（プレイリスト）を作成することができます。**“PLAY SETTING”** 画面の **“AREA”** 項目で **“PLAY LIST”** に設定すると、プレイリスト上のファイルを再生することができます。

プレイリストに登録する

1. MENUボタンを押して、**“MENU”** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って **“BROWSE”** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
   “BROWSE” 画面が表示されます。

メモ

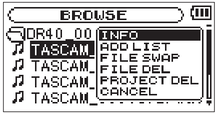
“BROWSE” 画面の詳細については、「第5章 ファイルやフォルダーの操作（BROWSE画面）」（66ページ）をご覧ください。

3. ＋ボタンまたはーボタンを使ってプレイリストに登録したいファイルを選択し、QUICKボタンを押します。
ポップアップメニューが表示されます。

メモ

ファイルの選択方法の詳細については、「BROWSE画面内のナビゲーション」（66ページ）をご覧ください。

4. ＋ボタンまたはーボタンを使って、**"ADD LIST"**を選択（反転表示）します。

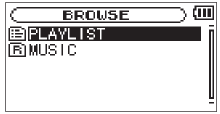


5. ENTER/MARKボタンを押します。
選択（反転表示）したファイルがプレイリストに登録され、ポップアップメニューが閉じます。
6. 必要に応じて上記手順3.、4.、5.を繰り返します。リスト上では、登録順に番号が付けられます。

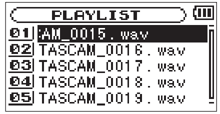
プレイリストを編集する

"PLAYLIST"画面には、作成したプレイリストが表示されます。また、この画面を使って、ファイルの再生やプレイリストの編集を行うことができます。

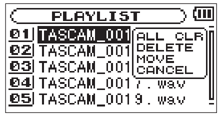
1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って**"BROWSE"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►Iボタンを押します。
"BROWSE"画面が表示されます。
3. I◄◄ボタンを使って、一番上の階層まで階層を移動します。



4. ＋ボタンまたはーボタンを使って**"PLAYLIST"**を選択（反転表示）して、►►Iボタンを押します。
"PLAYLIST"画面が表示されます。



5. ＋ボタンまたはーボタンを使って編集したいファイルを選択（反転表示）し、QUICKボタンを押します。
ポップアップメニューが表示されます。



6. ＋ボタンまたはーボタンを使って希望の項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと、本機が以下の動作を行います。

ALL CLR：

プレイリスト上の全てのファイルを削除する確認のポップアップメッセージが表示されますので、削除する場合は ENTER/MARKボタンを押します。削除しない場合は ⏻/ | (HOME)[■]ボタンを押します。

この操作の場合は、手順5.でどのファイルを選択してもかまいません。全ファイルがプレイリストから削除されますが、SDカードからは削除されません。

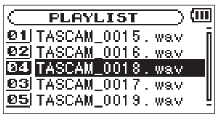
DELETE：

ファイルをプレイリストから削除します。プレイリストから削除されますが、SDカードからは削除されません。

MOVE：

選択しているファイルの順番を変更します。ファイル名だけでなく、番号の数字も反転表示になります。

● ＋ボタンまたはーボタンを使って、プレイリスト内で選択ファイルの順番を移動します。



上図は、4番目のファイルを3番目に移動した例です。

● ENTER/MARKボタンを押します。

移動が完了して、通常の **“PLAYLIST”** 画面に　戻ります。

CANCEL：

選択中のファイルに関する操作をキャンセルします。

再生するファイルを選択する（スキップ）

ホーム画面で、⏮ボタンまたは⏭ボタンを押して、再生したいファイルを選択します。

ファイルの再生途中で⏮ボタンを押すとファイルの先頭へ戻り、ファイルの先頭で⏮ボタンを押すと1つ前のファイルの先頭にスキップします。

ファイルの先頭、または途中で⏭ボタンを押すと、次のファイルへスキップします。

メモ

- 再生できるファイルは、再生範囲内のファイルです。
- 再生中のファイル情報（曲名など）やファイル番号がディスプレーに表示されます。
- ファイルの先頭で停止しているときは、ディスプレーに動作アイコン“■”を表示します。ファイルの途中で停止しているときは、動作アイコン“❚❚”を表示します。
- 現在の位置からファイルの先頭または最後までの間にIN点（ループ再生の始点）およびOUT点（終点）がある場合には、その点に移動します。ファイルを移動したい場合には、⏮ボタンまたは⏭ボタンを必要なだけ押してください。

再生する

ホーム画面で停止中にPLAY［►］ボタンを押すと、再生を始めます。

メモ

- 再生できるファイルは、再生範囲内のファイルです。
- **“BROWSE”**画面でファイル名を選択して再生させることもできます。

一時停止する

ホーム画面で再生中に ⏻/❙ (HOME)［■］ボタンを押すと、その位置で再生を停止します。（一時停止）
再度PLAY［►］ボタンを押すと、その位置から再生を始めます。

停止する

ホーム画面で再生中に ⏻/❙ (HOME)［■］ボタンを押して一時停止状態にし、再度 ⏻/❙ (HOME)［■］ボタンを押すと、ファイルの先頭に戻ります。（停止）

早戻し／早送りをする（サーチ）

ホーム画面で停止中または再生中に⏮ボタン／ ⏭ボタンを押し続けると、早戻し／早送りサーチ再生を行います。

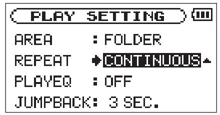
メモ

⏮ボタン／ ⏭ボタンを押し続けるとサーチスピードが加速してゆきます。

繰り返し再生する（REPEAT）

1つのファイルを繰り返して再生したり、指定した範囲内の複数のファイルを繰り返して再生することができます。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“PLAY SETTING”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは⏭ボタンを押します。
   “PLAY SETTING”画面が表示されます。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“REPEAT”**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは⏭ボタンを押します。



4. ＋ボタンまたはーボタンを使って、リピートのモードを設定します。

   CONTINUOUS（初期値）：
   　通常の再生（再生範囲内の連続再生）を行うモードです。

   SINGLE：
   　1ファイルだけ再生するモードです。リピートは行いません。
   　ホーム画面に“ ”アイコンが表示されます。

   1 REPEAT：
   　再生中のファイルをリピート再生するモードです。ホーム画面に“ ”アイコンが表示されます。

   ALL REPEAT：
   　再生範囲設定で設定した範囲内の全ファイルをリピート再生するモードです。ホーム画面に“ ”アイコンが表示されます。

メモ

上記の**“REPEAT”**項目を**“CONTINUOUS”**以外に設定しているときにループ再生を実行すると、リピート再生が自動的に**“CONTINUOUS”**になります。

5. 設定が終了したら、⏻/❙ (HOME) [■] ボタンを押して、ホーム画面に戻り、再生を開始します。

特殊な再生（再生コントロール機能）

本機の再生コントロール機能を使って、ファイル内の希望の区間を繰り返し再生したり、音程を変えずに再生スピードを変えることができます。また、再生したときに小さくて聞き取りにくいときに、全体の音圧感を調整して聞き取りやすくすることができます。
これらの再生コントロール機能を使って、練習やフレーズコピーを効果的に行うことができます。

再生コントロール機能の設定

再生コントロール機能の設定は、再生コントロール画面で行います。
ホーム画面で停止中または再生中にPB CONTボタンを押すと、再生コントロール画面が表示されます。

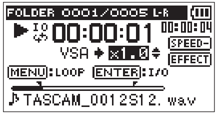
この画面では、再生スピード、ループ再生の設定ができます。
この画面内での設定作業を終えた後、⏻/❙ (HOME) [■] ボタンまたはPB CONTボタンを押すと、ホーム画面に戻ります。

指定した区間を繰り返し再生する（ループ再生）

以下の手順で、ファイル内の希望の区間を繰り返し再生（ループ再生）することができます。

1. ホーム画面で停止中または再生中にPB CONTボタンを押して、再生コントロール画面を表示します。

2. PLAY [►] ボタンを押して再生し、ループ再生したい区間の始点でENTER/MARKボタンを押します。
   現在位置がIN点（始点）として設定されます。
   再生位置表示バーの下部には、該当する位置に“▜”が点灯します。
3. ループ再生したい区間の終点でENTER/MARKボタンを押します。
   現在位置がOUT点（終点）として設定され、IN-OUT 点間のループ再生が開始されます。
   再生位置表示バーの下部には、該当する位置に“▛”が点灯します。
   ループ再生中は“IO”が点灯します。
   PB CONTボタンを押すと、IN点（始点）／OUT点（終点）の設定、およびループ設定が有効なままホーム画面に戻ります。このとき、ホーム画面でも“IO”が点灯し、再生位置表示バーの下部には、IN点（始点）／OUT点（終点）に該当する位置に“▜”／“▛”が点灯します。



メモ

- IN-OUT点間が短すぎる場合には、**"I/O Too Short"** というポップアップメッセージが表示されます。1秒以上空けて設定し直してください。
- 再度**ENTER/MARK**ボタンを押すと､IN点（始点）およびOUT点（終点）をクリアします。
- ループ再生を中止するには、再生コントロール画面を表示中に**MENU**ボタンを押します。再度**MENU**ボタンを押すと、設定されているIN-OUT点間でループ再生を行います。
- 2つ以上のファイルをまたいでのIN点（始点）およびOUT点（終点）の設定はできません。
- 違うファイルに対してIN点（始点）を設定すると､以前のIN点（始点）およびOUT点（終点）の設定は解除されます。
- MP3ファイルがVBR（可変ビットレート）形式の場合は、正確なIN点（始点）およびOUT点（終点）の指定ができない場合があります。

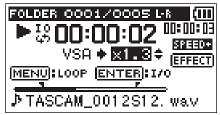
再生スピードを変える（VSA機能）

本機では、VSA機能（Variable Speed Audition）が搭載されており、再生音の音程を保ったまま再生スピードを変えることができます。

注 意

サンプリング周波数96kHzで録音されたファイルを選択しているとき、また、MONO/STEREOモード、OVERDUB/MIXモード以外で録音されたファイルを選択しているときは、VSA機能は使用できません。ただし、このときにも "SPEED" アイコンが表示され、再生スピードの変更は行うことができます。
このファイルでは有効になりませんが、ホーム画面に戻って⏮ボタンや⏭ボタンを使うなどして44.1k/48kHzのファイルをロードしたときに、再生スピードの設定が有効になります。

再生コントロール画面表示中に、**＋**ボタンまたは**－**ボタンを押すと、再生スピードを早くするまたは遅くすることができます。



再生スピード可変範囲は、**"0.5"** 倍（50%）～ **"1.5"** 倍（150%）の範囲で、0.1倍単位で設定可能です。

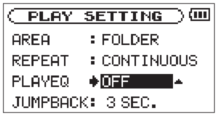
PB CONTボタンを押すと、設定した再生速度が有効なままホーム画面に戻ります。

再生速度が **"1.0"** 倍より大きいときには "SPEED+"、**"1.0"** 倍より小さいときには "SPEED-" と表示されます。

再生イコライザー（PLAY EQ）を使う

再生音を聴きやすくするために、お好みに合わせて音色を選択することができます（PLAY EQ：再生イコライザー）。
再生イコライザーの設定は、**“PLAY SETTING”**画面で行います。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“PLAY SETTING”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►I ボタンを押します。
   “PLAY SETTING”画面が表示されます。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“PLAY EQ”**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►I ボタンを押します。



4. ＋ボタンまたはーボタンを使ってイコライザーの設定をします。**“TREBLE”**で高域、**“MIDDLE”**で中域、**“BASS”**で低域が調節できることを示し、**“+”**／**“–”**はその音域を上げるか下げるかを示します。

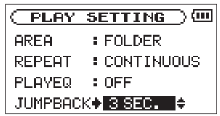
   選択肢：“OFF”（初期値）、**“TREBLE +”**、**“TREBLE －”**、**“MIDDLE +”**、**“MIDDLE –”**、**“BASS +”**、**“BASS –”**

5. 設定が終了したら、⏻/I (HOME)[■] ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

再生中に数秒前に戻り再生し直す（ジャンプバック再生）

再生中にPLAY［►］ボタンを押すと、数秒前（設定可能）に戻って再生します。（ジャンプバック再生機能）
再生中に聴きなおしたいフレーズ、歌詞などがあったときにPLAY［►］ボタンを押すことで、少し前から聴きなおすことができます。
戻る時間は、**“JUMPBACK”**項目で指定できます。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“PLAY SETTING”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►I ボタンを押します。
   “PLAY SETTING”画面が表示されます。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“JUMPBACK”**項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►I ボタンを押します。



4. ＋ボタンまたはーボタンを使ってジャンプバックで戻る時間を設定します。
   “1 SEC.”（1秒）～**“10 SEC.”**（10秒）の範囲で、1秒刻みおよび、**“20 SEC.”**（20秒）、**“30 SEC.”**（30秒）で設定できます。（初期値：**“3 SEC.”**）
5. 設定が終了したら、⏻/I (HOME)[■] ボタンを押して、ホーム画面に戻ります。

デュアル録音したファイルの再生

デュアル録音したファイルを再生しているときに**1/2 [SOLO]** ボタンまたは**3/4 [SOLO]** ボタンの長押しを行うと、デュアル録音した2つのファイルを交互に呼び出します。

メモ

1/2 [SOLO] ボタンまたは3/4 [SOLO] ボタンを使ったファイルの切り換えは、ファイル名の最初の11文字をもとに検索し行います。ファイル名の変更などをした場合は、切り換わらないことがあります。

OVERDUB INPUT MUTE機能（再生時）

SEPARATE MODE

3/4 [SOLO] ボタンを押すことで入力音と3/4チャンネルの再生音を切り換えることができます。
オーバーダビング録音後に録音したファイルを聴きなおす場合に使用します。

MIX MODE

1/2 [SOLO] ボタンを押すことで入力音のミュートをすることができます。

ソロ機能

1/2 [SOLO] ボタンまたは**3/4 [SOLO]** ボタンを長押しすることでソロ機能を設定することができます。
4チャンネルモードで録音されたプロジェクトなど、複数のファイルが再生対象となっている場合にどちらか一方のファイルのみをモニターすることができます。
ソロ状態は、トラック状態表示により確認する事ができます。

第7章　再生クイック操作

QUICKボタンの概要

QUICKボタンを使うと、次のことができます。

- ホーム画面で停止中または一時停止中に押すと、現在の再生ファイルの削除、分割とレベルアライン機能（全体の音圧感を上げる）を使うためのクイックメニュー画面を表示します。
  再生中は、レベルアライン機能のみのクイックメニュー画面を表示します。
- ホーム画面で録音待機中に押すと、レベルコントロール機能または内蔵ステレオマイクの左右を設定するためのクイックメニュー画面を表示します。
- **“BROWSE”**画面または**“PLAYLIST”**画面では、選択されているファイルまたはフォルダーを操作するポップアップメニューが表示されます。

メモ

“MENU”画面、**“OTHERS”**サブメニュー画面および**“REC SETTING”**画面などの各種設定画面では、QUICKボタンは無効です。

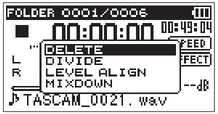
表示画面、状態におけるQUICKボタンの動作は、次のようになります。

表示画面	状態	動作内容
ホーム画面	停止中／一時停止中	削除、分割、レベルアライン機能のクイックメニュー画面を表示
	再生中	レベルアライン機能のみのクイックメニュー画面を表示
	録音待機中	レベルコントロール機能、内蔵ステレオマイクの左右設定のクイックメニュー画面を表示
	録音中	―
再生コントロール画面		レベルアライン機能のみのクイックメニュー画面を表示
“BROWSE”画面、**“PLAYLIST”**画面		選択したファイル（またはフォルダー）を操作するポップアップメニューを表示
“MENU”画面、**“OTHERS”**サブメニュー画面、各種設定画面		―
“MIXER”画面		**“MS DECODE”**のオフ、1/2チャンネル、3/4チャンネルの選択

クイックメニュー画面

ホーム画面表示中にQIUCKボタンを押すと、クイックメニュー画面が表示されます。
この画面に表示される内容は、QIUCKボタンを押したときの状態により動作が異なります。

- ホーム画面で停止中または一時停止中のとき現在のファイルの削除、分割とレベルアライン機能が選択できます。



[停止中／一時停止中のクイックメニュー画面]

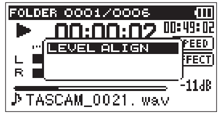
DELETE：
現在のファイルの削除ができます。（ → 82ページ「選択ファイルを削除する（クイックデリート）」）

DIVIDE：
現在のファイルを分割することができます。（ → 83ページ「選択ファイルを分割する（DIVIDE）」）

LEVEL ALIGN：
全体の音圧感を上げて聞き取りやすくすることができます。（ → 84ページ「音圧感を上げて聴き取りやすくする（レベルアライン機能）」）

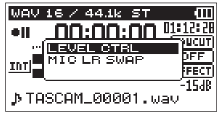
MIX DOWN：
4チャンネル（1/2チャンネル、3/4チャンネルの2ファイル）を、L ／ Rの2チャンネル（1ファイル）にまとめる機能です。
この時、エフェクトレベル、音量バランス、左右の定位を、**"MIXER"** 画面にて自由に設定できます。（ → 85ページ「ミックスダウン」）

- ホーム画面で再生中のとき、または再生コントロール画面のときレベルアライン機能のみが選択できます。



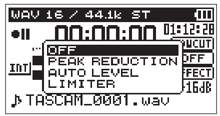
[再生中／再生コントロール画面のクイックメニュー画面]

- ホーム画面で録音待機中のときレベルコントロール機能と内蔵ステレオマイクの左右設定が選択できます。



[録音待機中のクイックメニュー画面]

"LEVEL CTRL" が選択（反転表示）されている状態で、ENTER/MARKボタンを押すと、レベルコントロール設定画面が表示されます。



この画面で、次の3つからレベルコントロール機能を選択できます。

PEAK REDUCTION（ピークリダクション）:

入力音が大きすぎたときに、入力レベルを適度なレベルまで自動で下げます。

AUTO LEVEL（オートレベル）:

入力音が小さいときは大きく、大きいときは小さくなるように入力レベルを自動で調節します。

LIMITER（リミッター）:

突発的な過大入力による歪みを防ぐことができます。

レベルコントロール機能の詳細は、48ページ「レベルコントロール機能を使う」を参照してください。

メモ

レベルコントロール機能でオートレベルに設定されている場合には、入力レベルの調節はできません。

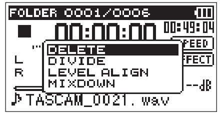
クイックメニュー画面を閉じる

クイックメニュー画面を閉じるには、QUICKボタンを押します。

選択ファイルを削除する（クイックデリート）

"BROWSE" 画面を使わずに、現在選択されているファイルを削除することができます。

1. ⏮ボタン、⏭ボタンを使って、削除したいファイルを選択します。
2. ホーム画面で停止中にQIUCKボタンを押して、クイックメニュー画面を表示します。



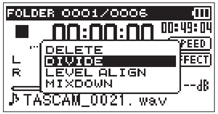
3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って、**"DELETE"** 項目を選択（反転表示）します。
4. ENTER/MARKボタンを押すと、ファイルの削除の確認画面が表示されます。

ENTER/MARKボタンを押すとファイルが削除され、⏻/I (HOME)[■] ボタンを押すと削除が中止されます。

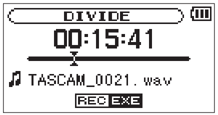
選択ファイルを分割する（DIVIDE）

録音したファイルを任意の位置で、2つのファイルに分割することができます。

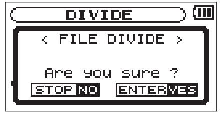
1. ⏮ボタン、⏭ボタン、もしくは **"BROWSE"** 画面で、分割したいファイルを選択します。
2. ホーム画面で停止中にQUICKボタンを押して、クイックメニュー画面を表示します。



3. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"DIVIDE"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
   "DIVIDE" 画面が表示されます。



4. ＋ボタンまたはーボタンを使って分割する位置を決定し、RECORD［●］ボタンを押します。
   以下のポップアップメッセージが表示されます。



5. ENTER/MARKボタンを押すと、ファイルが分割されます。
   ⏻/❙ (HOME)［■］ボタンを押すと、分割されずに **"DIVIDE"** 画面に戻ります。

メモ

- **"DIVIDE"** 画面表示中にPLAY［►］ボタンを押し、再生しながら位置を決めることもできます。
- **"DIVIDE"** 画面表示中は、PLAY［►］ボタンを押すたびに再生／一時停止を切り換え、⏮ボタンでファイルの先頭に、⏭ボタンでファイルの最後に移動します。＋ボタンまたはーボタンを押すと分割位置の微調整が行え、長く押すと連続移動できます。
- 分割すると、ファイル名の末尾に "a" または "b" が付加されたファイルが作成されます。

  （4チャンネルモードの録音ファイル例）

  分割前のファイル名

  TASCAM_0003S12.wav
  TASCAM_0003S34.wav

  分割後のファイル名

  TASCAM_0003aS12.wav（分割点より前の部分）
  TASCAM_0003aS34.wav（分割点より前の部分）
  TASCAM_0003bS12.wav（分割点より後の部分）
  TASCAM_0003bS34.wav（分割点より後の部分）

注 意

- MP3ファイルは、分割できません。
- SDカードの容量が少ない場合は、分割できないことがあります。
- ファイル名が200文字以上になる場合は、分割できません。
- 分割後のファイル名と同名のファイルが存在する場合は、分割できません。

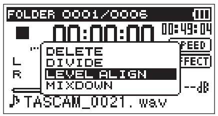
ヒント

録音中にあらかじめ分割したい位置にマークを付けておくことができます。（ → 61ページ「マーク機能」）

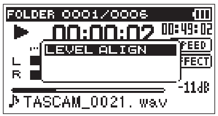
音圧感を上げて聴き取りやすくする（レベルアライン機能）

再生したときに小さくて聴き取りにくい音があるときなどに、全体の音圧感を上げて聴き取りやすくします。（レベルアライン機能）

1. ホーム画面で停止中または再生中に**QIUCK**ボタンを押して、クイックメニュー画面を表示します。



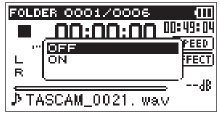
[停止中]



[再生中]

2. ＋ボタンまたは－ボタンを使って、**“LEVEL ALIGN”**項目を選択（反転表示）し、**ENTER/MARK**ボタンを押します。

3. レベルアライン設定画面が表示されます。



[停止中]

4. ＋ボタンまたは－ボタンを使って、**“ON”**を選択（反転表示）し**ENTER/MARK**ボタンを押すと、レベルアライン機能がオンになります。
   “OFF”を選択（反転表示）し**ENTER/MARK**ボタンを押すと、レベルアライン機能がオフになります。

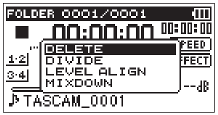
メ モ

再生音の素材によっては、効果が少ない場合があります（すでに音圧調整が行われている音楽ファイルなど）。

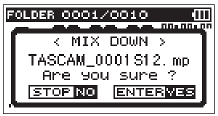
ミックスダウン

4チャンネル（1/2チャンネル、3/4チャンネルの2ファイル）を、L／Rの2チャンネル（1ファイル）にまとめる機能です。
この時、各チャンネルのエフェクトレベル（**"SEND"**）、左右の定位（PAN／MONOの場合は"**BAL"**）、音量バランス（**"LVL"**）の調整を、**"MIXER"**画面（→ 88ページ「ミキサー」）にて自由に設定できます。

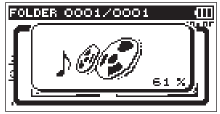
1. ⏮ボタン、⏭ボタン、もしくは**"BROWSE"**画面で、ミックスダウンをしたいファイルを選択します。
2. ホーム画面で停止中にQUICKボタンを押して、クイックメニュー画面を表示します。



3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って**"MIXDOWN"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押します。
"MIXDOWN"画面が表示されます。



4. ENTER/MARKボタンを押すとミックスダウンが開始されます。



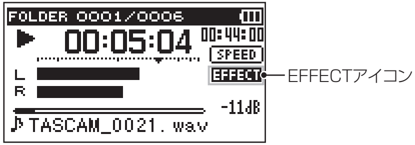
5. 終了後､ミックスダウンされた別ファイル（プロジェクト名の番号は､ミックスダウンする前にあった最終番号にインクリメントされた番号です）の再生ホーム画面となります。
この状態でPLAY［►］ボタンを押すと、ミックスダウンされたファイルの再生がされます。

注 意

再生ファイルがモノラルの場合、作成されるファイルもモノラルとなります。
モノラルファイルをミックスダウンする場合は、**"MIXER"**画面の"BAL"つまみを"L12"に設定してください。

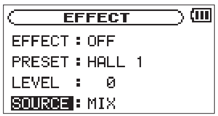
第8章　エフェクター

本機には、エフェクターが内蔵されています。
録音時や練習時、入力信号にエフェクトを掛けたり、再生時に再生信号にエフェクトを掛けることもできます。
エフェクターがオンのときは、ホーム画面上部の“EFFECT”アイコンが反転表示（“EFFECT”）します。



エフェクターを設定する

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたは－ボタンを使って**“OTHERS”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►Iボタンを押して**“OTHERS”**サブメニュー画面を表示します。
3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って**“EFFECT”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►Iボタンを押します。
   “EFFECT”画面が表示されます。



   上図のように、**“EFFECT”**画面には、4つの設定項目があります。
   I◄◄ボタン／ ►►Iボタン、および＋ボタン／－ボタンを使って各項目の設定をします。

   EFFECT：
   　エフェクターのオン／オフ設定をします。（初期値：**“OFF”**）
   PRESET：
   　使用するエフェクターをプリセットの中から設定します。エフェクターのプリセットの内容については、「エフェクターのプリセット一覧」（87ページ）をご覧ください。
   LEVEL：
   　“PRESET”項目で設定したエフェクターの出力レベルを変更することができます。設定範囲は、**“0”**～**“20”**です。
   SOURCE：
   　エフェクトを掛ける入出力音のソースを、下記の中から選択できます。（初期値：**“MIX”**）

SOURCE（選択肢）	内容
MIX（初期値）	オーバーダビングミックス録音時やミックスダウン録音時の出力音にエフェクトを掛ける
INT MIC ST	内蔵マイクからの入力音にエフェクトを掛ける
EXT IN1/2	外部マイクまたは外部機器からの入力音にエフェクトを掛ける

   “MIX”を選択したとき、各信号のエフェクトへの送りレベル（SEND）を**“MIXER”**画面で設定することができます。（→88ページ「ミキサー」）

4. ＋ボタンまたは－ボタンを使って希望の項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►Iボタンを押すと、選択肢／値の設定ができるようになります。
5. ＋ボタンまたは－ボタンを使って、希望の選択肢／値に設定します。
6. I◄◄ボタンを押して、設定項目状態にします。

7. 設定が終了したら、⏻/❙(HOME)[■] ボタンを押します。

注意

サンプリング周波数を96kHzに設定しているとき、およびサンプリング周波数が96kHzのWAVファイルを再生した場合には、エフェクター機能は働きません。このとき、エフェクターの設定をすることは可能です。

エフェクターのプリセット一覧

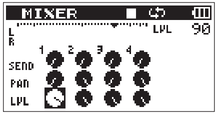
プリセットネーム	効果
HALL 1（初期値）	ホールのような広い空間をイメージしたブライトなリバーブです。
HALL 2	ホールのような広い空間をイメージしたウォームなリバーブです。
ROOM	小さな室内の空間をイメージしたリバーブです。
STUDIO	スタジオのような空間をイメージしたリバーブです。
PLATE 1	ブライトなプレートリバーブです。
PLATE 2	ウォームなプレートリバーブです。

第9章　ミキサー

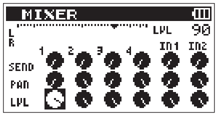
本機に内蔵しているエフェクトや、左右の定位、音量バランスを、各チャンネルごとに設定できるミキサー機能があります。
ミックスダウン(→ 85ページ「ミックスダウン」)や再生時に、これらを設定することにより、録音時の音に対し細かく変更ができます。

ミキサーを設定する

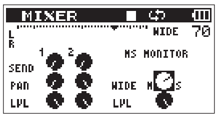
1. ホーム画面 で､MIXERボタンを押して **“MIXER”** 画面を表示します。



[4チャンネルファイル再生時]



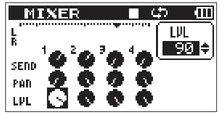
[オーバーダビング（ミックス）モード時]



[4チャンネルファイル再生時（3/4チャンネルMSデコード）]

2. ⏮ボタン／ ⏭ボタンまたは＋ボタン／－ボタンを使って、縦に配列している各チャンネル、横に配列された各設定の変更したい部分に持っていき、選択（反転表示）させせます。

3. ENTER/MARKボタンを押すと、右上に設定項目名と設定値がポップアップ表示されます。



4. ＋ボタンまたは－ボタンを使って、設定値を変更します。

項目	設定範囲	動作内容
SEND	0〜100	選択されているエフェクト（86ページ 第8章「エフェクター」）の送りレベルを調整（0：最小〜100：最大）
PAN/BAL	L12〜C〜R12	左右のバランス調整 (L12：左〜C：中央〜R12：右）
LEV	0〜100	音量バランスの調整 (0：最小〜100：最大）

5. ENTER/MARKボタンを押すともとの場所へ戻り、次に設定値を変更したい場所を選択できる状態になります。

メモ

- 録音時、録音待機時、再生時、再生一時停止時、再生停止時のいずれの時も、操作が可能です。
- **“MIXER”** 画面表示中も、PLAY［►］ボタンでの再生、⏻/I (HOME)［■］ボタンでの再生一時停止が可能です。
- REC MODEで **“MS DECODE”** 項目を **“ON”** に設定中、**“MIXER”** 画面のQUICKメニューのMS DECODERは **“Using by Input”** と表示され、使用できません。

MSデコーダーを使用する

MSマイクを使用して録音する場合は、入力音をデコードしながら録音する方法とデコードせずに録音し、再生時にデコードする方法があります。

入力音をデコードしながら録音する方法

1. 外部入力端子にMSマイクを接続します。
   MSマイクのMid側を**EXT MIC L**端子に、Side側を**EXT MIC R**端子にそれぞれ接続してください。
   MidとSideを逆に接続すると正しくデコードすることができません。
2. **"REC MODE"** 画面において、**"REC MODE"** 項目を **"STEREO"**、**"DUAL"**、**"4CH"** のいずれかを選択し、**"SOURCE"** 項目で **"EXT IN 1/2"** を選択（4CHモード時は選択はありません）します。
3. **"MS DECODE"** 項目を **"ON"** にします。
4. 録音操作を行うとデコードされた信号が録音されます。

再生音をデコードする方法

1. MSマイクを使い、**"MS DECODE"** 項目を **"OFF"** にして録音したファイルを選択します。
2. ホーム画面表示中に**MIXER**ボタンを押して、**"MIXER"** 画面を表示します。
3. **QUICK**ボタンを押し、MSデコーダーを使用するチャンネルを選択します。
4. 再生操作を行うとデコードしながら再生します。

MSデコーダーの設定

"MIXER" 画面内の **"WIDE"** パラメーターで音の広がり具合を調節します。
録音時にデコードする場合は、録音待機中に **"MIXER"** 画面を表示させてください。
入力側にデコーダーを使用しているときは **"MS INPUT"**、再生側に使用している場合は **"MS MONITOR"** と **"MIXER"** 画面内に表示されます。

項目	設定内容	動作内容
WIDE	0〜100	音の広がり具合を調節します。

"0" でMidが100%となり、数字が大きいほどSideの割合が大きくなります。

注意

MSデコーダーは、**"REC MODE"** 画面内で **"MS DECODE"** 項目を **"ON"** にした場合は、**"MIXER"** 画面内では選択できません（**"Using by Input"** とメッセージが表示されます）。
再生時に使用する場合は、**"REC MODE"** 画面内で **"MS DECODE"** 項目を **"OFF"** にしてください。

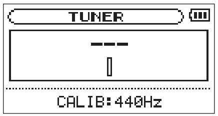
第10章　楽器をチューニングする（チューナー）

本機は、チューナーを内蔵しています。楽器の音を本機に入力することによって、ディスプレーのチューニングメーターを見ながら正確なチューニングができます。

チューナーを使う

チューナーを設定する

1. MENUボタンを押して、**"MENU"**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたは－ボタンを使って**"OTHERS"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶|ボタンを押して**"OTHERS"**サブメニュー画面を表示します。
3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って**"TUNER"**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは▶▶|ボタンを押します。
"TUNER"画面が表示されます。

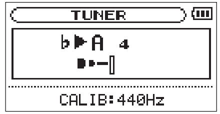


"TUNER"画面では、A（ラ）音の基準周波数を設定する**"CALIB"**項目があります。|◀◀ボタンを押すと基準周波数の値が下がり、▶▶|ボタンを押すと上がります。

設定範囲："435Hz"**～**"445Hz"**（1Hz単位）**
初期値："440Hz"**

チューニングする

1. **"TUNER"**画面が表示されている状態で、チューニングする楽器の音を入力します。
もっとも近い音名がメーター上部に表示されます。
2. 合わせたい音名が表示されて、メーター中央部が点灯するようにチューニングします。
チューニングが低すぎる場合は左側、高すぎる場合は右側にバーが表示されます。ズレが大きいほど、バーが長く表示されます。



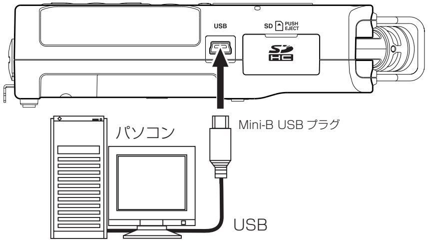
注 意

チューナーは、内蔵マイクのみ使用可能です。

第11章　パソコンと接続する

本機をパソコンと付属のUSBケーブルで接続することで、本機のSDカードの中の音声ファイルをパソコンに取り出したり、パソコンの中の音声ファイルを本機に取り込んだりすることができます。
本機で取り扱うことができる音声ファイル形式は、以下の通りです。

MP3：32k ～ 320kbps、44.1k/48kHz
WAV：44.1k/48k/96kHz、16/24ビット



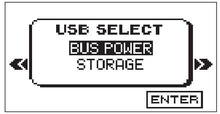
メモ

本機とパソコンをUSB接続する代わりに、本機からSDカードを取り外して直接（あるいはカードアダプターを使って）パソコンにセットしても、同じ操作ができます。

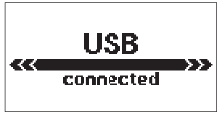
注意

- USBを接続し **"STORAGE"** を選択（反転表示）した場合は、本機の操作はできません。
- パソコンとの接続は、ハブを経由せずに直接接続してください。

電源がオンのときにUSB接続すると、またはUSB接続後に電源をオンにすると、USBバスパワーで供給するか、パソコンとUSB接続するかを選択する **"USB SELECT"** 画面が表示されます。



＋ボタンまたはーボタンを使って **"STORAGE"** を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンを押すと本機がパソコンに接続され、ディスプレーに **"USB connected"** が表示されます。



本機にSDカードが正しく挿入されていることを確認してください。

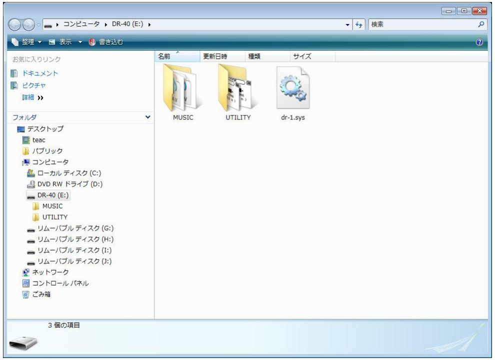
メモ

電池をセットした状態で、USB接続した場合は、USBから電源が供給されます。（USBバスパワー優先）

SDカードが正しく挿入されていない状態でUSB接続を行うと、ポップアップメッセージ **"Can't Save Data"** が表示されます。
パソコンのディスプレー上に、本機が《DR-40》というボリュームラベルの外部ドライブとして表示されます。

パソコンへファイルを取り出す

1. パソコンのディスプレー上の《DR-40》ドライブをクリックすると、《MUSIC》フォルダーと《UTILITY》フォルダーが表示されます。
2. 《MUSIC》フォルダーを開き、パソコンに取り出したいファイルを任意の場所にドラッグ&ドロップします。



パソコンからファイルを取り込む

1. パソコンのディスプレー上の《DR-40》ドライブをクリックすると、《MUSIC》フォルダーと《UTILITY》フォルダーが表示されます。
2. パソコンの任意の音声ファイルを《MUSIC》フォルダーにドラッグ&ドロップします。

ヒント

- パソコン上の操作で、《MUSIC》フォルダー内を管理することができます。
- 《MUSIC》フォルダー内にサブフォルダーを作成することができます。サブフォルダーは、2階層まで作成できます。本機では、3階層以下のサブフォルダーおよびファイルは認識できません。
- 本機では、フォルダー内のみを再生範囲に設定することもできますので、取り込む楽曲のカテゴリーや演奏者別に整理しておくと便利です。
- サブフォルダーや楽曲に希望の名前を付けておくと、本機のホーム画面上やブラウズ画面上に表示されます。

パソコンとの接続を解除する

パソコンと本機の接続を外すときは、パソコンから本機を正しい手順で切り離してから、USBケーブルを外します。
シャットダウン処理が実行されたあとに、電源がオフになります。
パソコン側での接続解除方法については、パソコンの取扱説明書をご覧ください。

情報を見る（INFORMATION）

“INFORMATION”画面で、本機の各種情報を見ることができます。
以下の手順で**“INFORMATION”**画面を表示します。

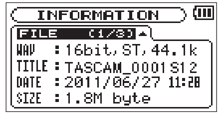
1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“OTHERS”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►Iボタンを押して**“OTHERS”**サブメニュー画面を表示します。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って**“INFORMATION”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►Iボタンを押します。

“INFORMATION”画面には、以下の3ページがあります。＋ボタンまたはーボタンを使って、これらのページを切り換えることができます。

- **ファイル情報ページ（FILE）：**
  現在ロードされているオーディオファイルの情報を表示
- **カード情報ページ（CARD）：**
  セットしているSDカードの使用状況を表示
- **システム情報ページ（SYSTEM）：**
  本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示

ファイル情報ページ（FILE）

“FILE”ページでは、現在ロードされているオーディオファイルの情報を表示します。



WAV ／ BWF ／ MP3

オーディオファイルの形式を表示します。
WAV ／ BWFファイルの場合は、ビット長、ステレオ／モノラル、サンプリング周波数（Hz）を表示します。
MP3ファイルの場合は、ビットレート（kbps）、CBR ／ VBR、サンプリング周波数（Hz）を表示します。（CBR：固定ビットレート、VBR：可変ビットレート）

TITLE

ファイル名を表示します。
MP3ファイルでID3タグのタイトル情報がある場合は、その情報を表示します。

DATE

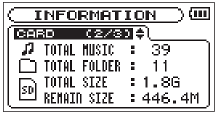
ファイルの日付を表示します。

SIZE

ファイルサイズを表示します。

カード情報ページ（CARD）

"CARD" ページでは、挿入しているSDカードの使用状況を表示します。



TOTAL MUSIC

MUSICフォルダー内にある再生可能なファイル数を表示します。

TOTAL FOLDER

MUSICフォルダー内にあるフォルダー数を表示します。

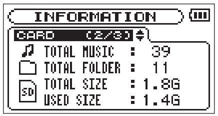
TOTAL SIZE

SDカードの総メモリー容量を表示します。

REMAIN SIZE ／ USED SIZE

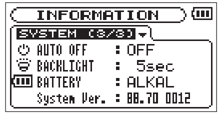
SDカードの残容量／使用量を表示します。

⏮ ボタンまたは ⏭ ボタンを押すと、表示が **"REMAIN SIZE"** と **"USED SIZE"** に交互に切り換わります。



システム情報ページ（SYSTEM）

"SYSTEM" ページでは、本機のシステムの設定情報、ファームウェアバージョンを表示します。



AUTO OFF

電源のオートオフ設定を表示します。

BACKLIGHT

バックライトのオートオフ設定を表示します。

BATTERY

使用する電池の種類の設定を表示します。

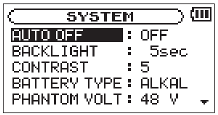
System Ver.

システムファームフェアのバージョン情報を表示します。

環境設定（SYSTEM）

使用環境や条件に合わせて本機を快適に使うためのさまざまな設定、および本機の初期化やSDカードのフォーマットなどを、**“SYSTEM”**画面で行います。
以下の手順で**“SYSTEM”**画面を表示します。

1. MENUボタンを押して、**“MENU”**画面を表示します。
2. ＋ボタンまたは－ボタンを使って**“OTHERS”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►I ボタンを押して**“OTHERS”**サブメニュー項目を表示します。
3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って**“SYSTEM”**メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは►►I ボタンを押します。**“SYSTEM”**メニュー画面が表示されます。



“SYSTEM”画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。
I◄◄ ボタン、►►I ボタン、および＋ボタンまたは－ボタンを使って、各項目の設定をします。

電源のオートオフ設定

“AUTO OFF”項目で電池供給のときに、最後に動作あるいは操作してから自動的に電源がオフになるまでの時間を設定します。

選択肢：“OFF”（初期値、自動オフしない）、**“5min”**（分）、**“10min”**（分）、**“30min”**（分）

バックライトの設定

“BACKLIGHT”項目で電池供給のときに、最後に操作してから自動的にバックライトが消灯するまでの時間を設定します。

選択肢：“OFF”（消灯）、**“5sec”**（秒、初期値）、**“10sec”**（秒）、**“15sec”**（秒）、**“30sec”**（秒）、**“ALWAYS”**（常に点灯）

ディスプレーのコントラスト調節

“CONTRAST”項目でディスプレーのコントラストを調節します。

選択肢：“1”～**“20”**（初期値：**“5”**）

電池の種類の設定

“BATTERY TYPE”項目で、使用する電池の種類を設定します。この設定は、電池の残量表示や正常動作に必要な最低残量の識別に使用されます。

選択肢：“ALKAL”（アルカリ乾電池、初期値）、
“Ni-MH”（ニッケル水素電池）

ファントム電源の電圧値の設定

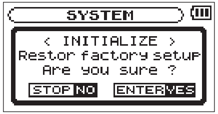
“PHANTOM VOLT”項目で、ファントム電源を必要とする外部マイクを接続して使用するときの供給電源電圧値を設定します。

選択肢：“+24V”、**“+48V”**（初期値）

初期設定に戻す

"INITIALIZE" 項目でイニシャライズを実行することにより、本機のさまざまな設定を初期設定状態に戻すことができます。

1. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"INITIALIZE"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押すと、**"Exec"** が反転表示します。
2. ENTER/MARKボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。

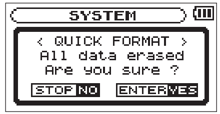


3. ENTER/MARKボタンを押して、イニシャライズを実行します。イニシャライズしない場合は、⏻/ I (HOME)［■］ボタンを押します。

クイックフォーマットする

"QUICK FORMAT" 項目で、SDカードをクイックフォーマットします。クイックフォーマットを行うと、カード上の全ての音楽ファイルが消去され、《MUSIC》フォルダー、《UTILITY》フォルダーおよび《dr-1.sys》が自動生成されます。

1. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"QUICK FORMAT"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押すと、**"Exec"** が反転表示します。
2. ENTER/MARKボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。

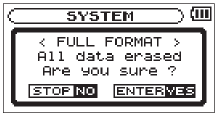


3. ENTER/MARKボタンを押して、クイックフォーマットを実行します。クイックフォーマットしない場合は、⏻/ I (HOME)［■］ボタンを押します。

フルフォーマットする

"FULL FORMAT" 項目で、SDカードをフルフォーマットします。フルフォーマットを行うと、カード上の全ての音楽ファイルが消去され、《MUSIC》フォルダー、《UTILITY》フォルダーおよび《dr-1.sys》が自動生成されます。
フルフォーマットでは、メモリーのエラーをチェックしながらフォーマットを実行するため、クイックフォーマットと比べて多くの時間がかかります。

1. ＋ボタンまたは－ボタンを使って **"FULL FORMAT"** 項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押すと、**"Exec"** が反転表示します。
2. ENTER/MARKボタンを押すと、確認のポップアップメッセージが表示されます。



3. ENTER/MARKボタンを押して、フルフォーマットを実行します。
フルフォーマットしない場合は、⏻/I (HOME)［■］ボタンを押します。

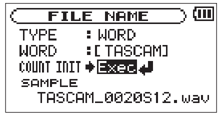
注 意

フォーマットの実行は、別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）を使用するか、パソコンとのUSBバスパワー接続状態で行うか、電池の残量が十分な状態で行ってください。
フォーマット中に電池切れになると、正常なフォーマットができない場合があります。

ファイル名の形式を設定する

本機で録音するファイル名の形式を設定することができます。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたは－ボタンを使って **"OTHERS"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押して **"OTHERS"** サブメニュー画面を表示します。
3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って **"FILE NAME"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
"FILE NAME" 画面が表示されます。



I◄◄ ボタン、►►I ボタン、および＋ボタンまたは－ボタンを使って、各項目の設定をします。
この画面の各項目で、以下の設定を行うことができます。

ファイル名の形式

“TYPE”項目で、**“WORD”**か**“DATE”**かを設定します。

選択肢：“WORD”（初期値）、**“DATE”**

WORD：**“WORD”**で設定した6文字をファイル名に付けます。
（例）TASCAM_0001S12.wav

DATE：日付をファイル名に付けます。
（例）110101_0000.wav

メモ

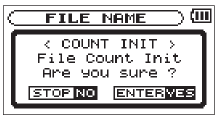
日付は、本体内の時計をもとに設定されます。（ → 36ページ「日時を設定する」）

文字（WORD）の設定

“WORD”項目で、⏮ボタンまたは⏭ボタンでカーソルを移動し、＋ボタンまたは－ボタンを使って文字を設定します。
文字は、英数の他に、記号「! # $ % & ’ ( ) + , - . ; = @ [] ^ _ ` { } ~」が使用可能です。

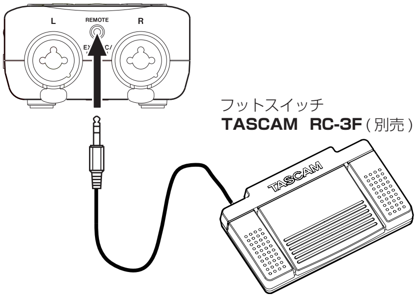
数字（COUNT）の初期化設定

“COUNT INIT”項目で、ENTER/MARKボタンを押して実行すると、この以降のファイル作成時より、**“WORD”**項目で設定した文字に続く数字部分が、**“0001”**から始まります。



本機には、REMOTE端子が用意されています。別売の専用のフットスイッチ型リモートコントローラー（TASCAM RC-3F）または別売の専用ワイヤードリモコン（TASCAM RC-10）を接続して、本機を操作することができます。

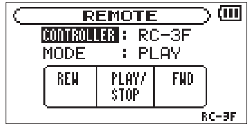
フットスイッチを使う（TASCAM RC-3F）



フットスイッチを設定する

"REMOTE" 設定画面で、フットスイッチの設定を行います。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたは－ボタンを使って **"OTHERS"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押して **"OTHERS"** サブメニュー画面を表示します。
3. ＋ボタンまたは－ボタンを使って **"REMOTE"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押して **"REMOTE"** 設定画面を表示します。



4. ＋ボタンまたは－ボタンを使って **"CONTROLLER"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
5. **"CONTROLLER"** 項目を＋ボタンまたは－ボタンを使って **"RC-3F"** を選択します。（初期値：RC-3F）
6. I◄◄ ボタンと＋ボタンまたは－ボタンを使って **"MODE"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ►►I ボタンを押します。
7. **"MODE"** 項目を＋ボタンまたは－ボタンを使って変更します。

   選択肢："PLAY"**（初期値）、**"RECORD1"**、**"RECORD2"**、**"MINUTES"**

8. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

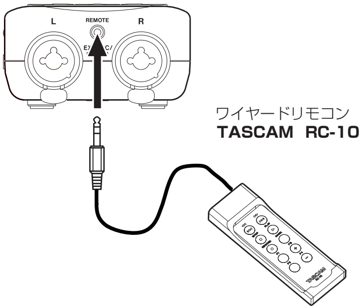
フットスイッチを使う

フットスイッチの各ペダルを踏むと、**"REMOTE"** 画面で割り当てられた動作を行います。

各モードの詳細

MODE	フットスイッチ		
	L	C	R
PLAY	REW	PLAY ／ STOP	FWD
RECORD1	STOP	REC ／ PAUSE	INC
RECORD2	STOP	REC ／ PAUSE	MARK
MINUTES	FLASH	PLAY ／ STOP	SPEED CHANGE

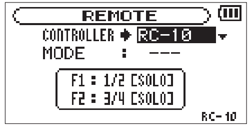
リモコンを使う（TASCAM RC-10）



ワイヤードリモコンを設定する

"REMOTE" 設定画面で、ワイヤードリモコンの設定を行います。

1. MENUボタンを押して、**"MENU"** 画面を表示します。
2. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"OTHERS"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ▸▸I ボタンを押して **"OTHERS"** サブメニュー画面を表示します。
3. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"REMOTE"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ▸▸I ボタンを押して **"REMOTE"** 設定画面を表示します。
4. ＋ボタンまたはーボタンを使って **"CONTROLLER"** メニュー項目を選択（反転表示）し、ENTER/MARKボタンまたは ▸▸I ボタンを押します。
5. **"CONTROLLER"** 項目を＋ボタンまたはーボタンを使って **"RC-10"** を選択します。（初期値：RC-3F）



[13-4]

6. 設定が終了したら、HOMEボタンを押してホーム画面に戻ります。

ワイヤードリモコンを使う

ワイヤードリモコンの各ファンクションボタン（F1ボタン、F2ボタン）を押すと、**"REMOTE"** 設定画面で割り当てられた動作を行います。

各モードの詳細

MODE	ファンクションボタン			
	F1	F2	F3	F4
- - -	1/2 [SOLO]	3/4 [SOLO]	INPUT VOL ＋	INPUT VOL －

第14章　メッセージ

以下にポップアップメッセージの一覧表を示します。
DR-40では、状況に応じてポップアップメッセージが表示されますが、それぞれのメッセージの内容を知りたいとき、および対処方法を知りたいときにこの表をご覧ください。

メッセージ	内容と対処方法
File Name ERR	DIVIDEによりファイル名の文字数が200文字を超えました。DIVIDEを行うとファイル名の末尾に「_a」または「_b」が追加されます。DIVIDEを行う前にパソコンと接続し、198文字以下のファイル名に変更してください。
Dup File Name	DIVIDEにより作成されるファイルと同じファイル名のファイルが同じフォルダー内に既に存在します。DIVIDEを行うとファイル名の末尾に「_a」または「_b」が追加されます。DIVIDEを行う前にパソコンと接続し、ファイル名を変更してください。
File Not Found	プレイリストに登録されているファイルが見つからないか、ファイルが壊れている可能性があります。対象のファイルを確認してください。
Non-Supported	ファイル形式がサポート対象外です。取り扱い可能なファイル形式については、「第11章 パソコンと接続する」をご覧ください。
Battery Empty	電池の残量がありません。電池を交換してください。
I/O Too Short	IN点（始点）とOUT点（終点）の間隔が短すぎます。1秒以上空けて設定してください。
File Not Found PLAYLIST	プレイリストに登録されているファイルが見つかりません。MUSICフォルダー内に対象のファイルがあるか確認してください。
No PLAYLIST	プレイリストにファイルが登録されていません。プレイリストにファイルを登録するか、プレイモードを「PLAYLIST」以外に設定してください。
PLAYLIST Full	プレイリストが一杯です。プレイリストには、最大99ファイルまで登録可能です。
MBR Error Init CARD	カードが正常にフォーマットされていないか、カードが壊れている可能性があります。カードを交換するか、このメッセージが表示されている状態で**ENTER/MARK**ボタンを押すと、FATフォーマットが実行されます。 FATフォーマットが実行されるとカード内のデータは、全て消去されます。
Format Error Format CARD	カードが正常にフォーマットされていないか、カードが壊れている可能性があります。このメッセージは、USB接続したパソコンでFATフォーマットした場合や未フォーマットのカードを挿入した場合にも表示されます。 フォーマットは、必ずDR-40本体で行ってください。カードを交換するか、このメッセージが表示されている状態で**ENTER/MARK**ボタンを押すと、FATフォーマットが実行されます。 FATフォーマットが実行されるとカード内のデータは、全て消去されます。
File Not Found Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルがありません。このメッセージが表示されている状態で**ENTER/MARK**ボタンを押すと、システムファイルが作られます。

メッセージ	内容と対処方法
Invalid SysFile Make Sys File	本機を使用するために必要なシステムファイルが正常でありません。このメッセージが表示されている状態で**ENTER/MARK**ボタンを押すと、新しいシステムファイルが作られます。
Invalid Card Change Card	カードが正常でない可能性があります。カードを交換してください。
Write Timeout	カードへの書き込みが間に合いませんでした。 ファイルをパソコンへバックアップの上、フォーマットを実行してください。
Card Full	カードの残容量がありません。不要なファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
Layer too Deep	フォルダーは、2階層までです。このフォルダー内に新たなフォルダーを作成することはできません。
Can't Divide	DIVIDE実行時に分割位置が適切でありません。（ファイルの先頭、ファイルの最後）
Max File Size	ファイルのサイズが指定のサイズを超えました。あるいは録音時間が24時間を超えました。
File Full	フォルダーとファイルの総数が制限値（5000個）を超えました。不要なフォルダーやファイルを削除するかパソコンへ移動してください。
Card Error	カードを正常に認識できません。カードを交換してください。
Current File MP3	MP3ファイルの分割はできません。
File Protected	読み取り専用ファイルのため、削除できません。
No Card	SDカードがセットされていません。録音可能なSDカードを挿入してください。
No PB File	再生可能なファイルがありません。ファイルが壊れている可能性があります。
No MUSIC File	再生ファイルが無いため、DIVIDEおよびOVER DUBは実行できません。
Cannot overdub! See REC setting	96kHzのWAVファイルをMP3でオーバーダビングすることはできません。録音フォーマットをWAVにしてください。
Using by Input	MSデコーダーが入力で設定されています。モニターで使用する場合は、**“REC MODE”**画面で**“MS DECODE”**項目を**“OFF”**してください。
Now DUAL REC	デュアル録音モードで入力レベルコントロール設定を変更する場合は、**“REC MODE”**画面で行ってください。
Now OVERDUB	MSデコーダーは、オーバーダビング録音モードでは使用できません。
Virtual File !	バーチャルファイルの再生、プレイリスト登録はできません。再生する場合は、FILE SWAPを実行してください。
Can't File Swap	ファイルが1つのみのプロジェクトでFILE SWAPはできません。

メッセージ	内容と対処方法
Now Auto Rec	オートレック機能が有効時には、セルフタイマーは機能しません。**“REC SETTING”**画面で**“AUTO REC”**項目を**“OFF”**してください。
Not Continued	これらのエラーが出た場合は、本体の電源を入れなおしてください。 電源を切ることができない場合は、電池や別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）を取り外す、またはＵＳＢバスパワー供給時はＵＳＢケーブルを外してください。 これらのエラーが頻繁に発生する場合は、ティアック修理センターにご相談ください。
File Error	
Can't Save Data	
Player Error	
Device Error	
Writing Failed	
Sys Rom Err	
Remote Cmd	
Remote Rx	
System Err 50	
System Error 1	
System Error 2	
System Error 3	
System Error 4	
System Error 5	
System Error 6	
System Error 7	
System Error 8	
System Error 9	

第15章　トラブルシューティング

本機の動作がおかしいときは、修理を依頼する前にもう一度、下記の点検を行ってください。それでも改善しないときは、お買い上げ店またはティアック修理センターにご連絡ください。

● 電源が入らない。

↓

- 電池が消耗していませんか？
- 電池の⊕、⊖を間違ってセットしていませんか?
- 別売の専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U）の電源プラグおよびUSBコネクターがしっかりと差し込まれていますか?
- パソコンとUSBバスパワー接続しているときに、USBケーブルがしっかりと差し込まれていますか？
- パソコンとUSBバスパワー接続しているときに、USBハブを使用していませんか？

● 本体で操作できない。

↓

- HOLDスイッチが矢印方向にセットされていませか？
- USB接続（USB Connected）になっていませんか？

● SDカードを認識しない。

↓

- SDカードがしっかりと挿入されているか確認してください。

● 再生できない。

↓

- WAVファイルの場合は、本機が対応しているサンプリング周波数であるかどうかを確認してください。
- MP3ファイルの場合は、本機が対応しているビットレートであるかどうかを確認してください。

● スピーカーから音が出ない。

↓

- ヘッドホンをつないでいませんか？
- **“SPEAKER”**項目が**“OFF”**になっていませんか？
- モニターシステムは、きちんと接続されていますか？
- モニターシステムの音量が最小になっていませんか？
- 本機の出力レベル設定が最小になっていませんか？

● 録音できない。

↓

- 接続をもう一度確認してください。
- 入力設定をもう一度確認してください。
- 入力レベルが低くなっていませんか？
- SDカード容量がいっぱいになっていませんか？
- ファイル数が最大数に達していませんか？

● 入力レベルが低い。

↓

- 入力レベル設定が低くなっていませんか？
- 接続した外部機器の出力レベルが低くなっていませんか？

● 録音しようとする音が歪んで聞こえる。

↓

- 入力レベル（**“INPUT LEVEL”**）の設定が大きすぎませんか？
- エフェクターが掛かっていませんか？

● 再生音が不自然に聞こえる。

↓

- 再生のスピードを変えていませんか?
- 再生イコライザーの設定状態を確認してください。
- レベルアライン機能が有効になっていませんか？
- エフェクターがかかっていませんか？

● ファイルが消去できない。

↓

- パソコンで読み取り専用に設定したファイルをコピーしたものを消去しようとしていませんか？

● パソコン上に本機のファイルが表示されない。

↓

- 本機がUSB端子経由でパソコンに接続されていますか？
- USBハブを使っていませんか？
- 本機が録音中、または録音待機中になっていませんか？

第16章　仕様

定格

記録メディア
SDカード（64MB ～ 2GB）
SDHCカード（4GB ～ 32GB）

録音再生フォーマット
BWF：44.1k/48k/96kHz、16/24ビット
WAV：44.1k/48k/96kHz、16/24ビット
MP3：44.1k/48kHz、32k/64k/96k/128k/192k/256k/320kbps

チャンネル数
4チャンネル（ステレオ x2）

入出力定格

アナログオーディオ入出力定格

EXT MIC/LINE IN 端子（ファントム電源対応）
コネクター：
XLR-3-31
（1：GND、2：HOT、3：COLD）
6.3mm（1/4”）TRS標準ジャック
（Tip：HOT、Ring：COLD、Sleeve：GND）

EXT INスイッチMIC時、MIC+PHANTOM時
入力インピーダンス：2.2kΩ
基準入力レベル：－19dBV
最大入力レベル：－3dBV

EXT INスイッチLINE時
入力インピーダンス：10kΩ以上
基準入力レベル：+4dBu
最大入力レベル：+20dBu

/LINE OUT 端子
コネクター：1/8”（3.5mm）ステレオミニジャック
出力インピーダンス：12Ω
基準出力レベル：－14dBV（10kΩ負荷時）
最大出力レベル：+2dBV（10kΩ負荷時）
最大出力：20mW+20mW（ヘッドホン接続時、32Ω負荷時）

内蔵スピーカー
0.3W（モノラル）

コントロール入出力定格

USB 端子
コネクター：Mini-B タイプ
フォーマット：
USB2.0 HIGH SPEED マスストレージクラス

REMOTE端子
コネクター：2.5mmTRSジャック

オーディオ性能

周波数特性

20-20kHz ＋1/－3dB
（EXT IN to LINEOUT、Fs44.1kHz、JEITA）
20-22kHz ＋1/－3dB
（EXT IN to LINEOUT、Fs48kHz、JEITA）
20-40kHz ＋1/－3dB
（EXT IN to LINEOUT、Fs96kHz、JEITA）

歪率

0.05%以下（EXT IN to LINE OUT、Fs44.1k/48k/96 k Hz、JEITA）

S/N 比

92dB以上（EXT IN to LINE OUT、Fs44.1k/48k/96 k Hz、JEITA）

注）JEITA：JEITA CP-2150準拠

接続するパソコンの動作条件

最新の対応OS状況については、TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）ご確認ください。

Windowsマシン

Pentium 300MHz以上
128MB 以上のMemory
USBポート（推奨：USB2.0）

Macintoshマシン

Power PC、iMac、G3、G4 266MHz以上
64MB以上のMemory
USBポート（推奨：USB2.0）

推奨USBホストコントローラー

Intel製チップセット

サポートOS

Windows：Windows XP、Windows Vista、Windows 7
Macintosh：Mac OS X 10.2以上

一般

電源

単3形電池3本（アルカリ乾電池またはニッケル水素電池）
パソコンからのUSBバスパワー
専用ACアダプター（TASCAM PS-P515U、別売）

消費電力

1.7W（最大時）

電池持続時間（連続使用時）

● アルカリ乾電池（EVOLTA）使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、96kHz、24ビットで録音	約16時間	内蔵ステレオマイク入力時
2ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約20.5時間	内蔵ステレオマイク入力時
2ch MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約18時間	内蔵ステレオマイク入力時
4ch WAV、96kHz、24ビットで録音	約8.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約9時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約9.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
2ch WAV、96kHz、24ビットで再生	約16時間	ヘッドホン使用時
2ch WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約21.5時間	ヘッドホン使用時
2ch MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約17.5時間	ヘッドホン使用時
4ch WAV、96kHz、24ビットで再生	約15.5時間	ヘッドホン使用時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約17.5時間	ヘッドホン使用時
4ch MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約16.5時間	ヘッドホン使用時

録音時：JEITA録音時、再生時：JEITA音楽再生時

● ニッケル水素電池（eneloop）使用時

フォーマット	持続時間	備考
2ch WAV、96kHz、24ビットで録音	約12時間	内蔵ステレオマイク入力時
2ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約17時間	内蔵ステレオマイク入力時
2ch MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約15時間	内蔵ステレオマイク入力時
4ch WAV、96kHz、24ビットで録音	約8時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで録音	約8.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
4ch MP3、44.1kHz、128kbpsで録音	約8.5時間	内蔵ステレオマイク入力時+ライン入力時
2ch WAV、96kHz、24ビットで再生	約14時間	ヘッドホン使用時
2ch WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約17.5時間	ヘッドホン使用時
2ch MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約14.5時間	ヘッドホン使用時

フォーマット	持続時間	備考
4ch WAV、96kHz、24ビットで再生	約13時間	ヘッドホン使用時
4ch WAV、44.1kHz、16ビットで再生	約15時間	ヘッドホン使用時
4ch MP3、44.1kHz、128kbpsで再生	約15時間	ヘッドホン使用時

録音時：JEITA録音時、再生時：JEITA音楽再生時

外形寸法

70 x 155 x 35mm（幅 x 高さ x 奥行き、マイク閉状態）

90 x 155 x 35mm（幅 x 高さ x 奥行き、マイク開状態）

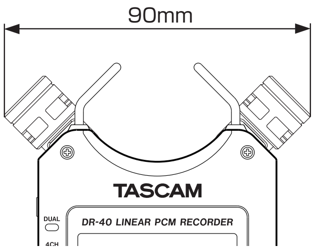
質量

213g（電池を含まず）

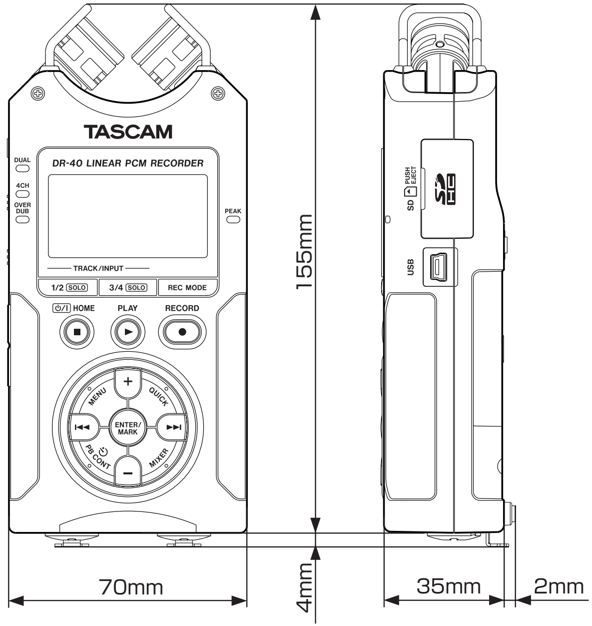
動作温度

0 ～ 40℃

寸法図



[マイク開状態の寸法]



＊ 取扱説明書のイラストが一部製品と異なる場合があります。

＊ 製品の改善により、仕様および外観が予告なく変更することがあります。

この製品の取り扱いなどに関するお問い合わせは

タスカム カスタマーサポートまでご連絡ください。お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く10:00〜12:00 ／ 13:00〜17:00です。

タスカム カスタマーサポート 〒206-8530 東京都多摩市落合 1-47

® **0120-152-854**

携帯電話・PHS・IP電話などからはフリーダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：042-356-9137 ／ FAX：042-356-9185

故障・修理や保守についてのお問い合わせは

修理センターまでご連絡ください。
お問い合わせ受付時間は、土・日・祝日・弊社休業日を除く9:30〜17:00です。

ティアック修理センター 〒358-0026 埼玉県入間市小谷田 858

市内通話料でOK® ナビダイヤル®

一般電話・公衆電話からは市内通話料金でご利用いただけます。

0570-000-501

ナビダイヤルは全国どこからお掛けになっても市内通話料金でご利用いただけます。
PHS・IP電話などからはナビダイヤルをご利用いただけませんので、通常の電話番号（下記）にお掛けください。
新電電各社をご利用の場合は、「0570」がナビダイヤルとして正しく認識されず、「現在、この電話番号は使われておりません」などのメッセージが流れることがあります。
このような場合は、ご契約の新電電各社へお問い合わせいただくか、通常の電話番号（下記）にお掛けください。

電話：04-2901-1033 ／ FAX：04-2901-1036

■ 住所や電話番号は，予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

ユーザー登録に関して

TASCAMのウェブサイト（http://tascam.jp/）にて、オンラインでのユーザー登録をお願いいたします。

ティアック株式会社

〒 206-8530
東京都多摩市落合 1-47
http://tascam.jp/

Printed in China